

# 豊明市スポーツ推進計画

誰もが いつでも いつまでも 気軽にスポーツに取り組める  
生涯スポーツ社会のまち とよあけ



平成25年3月

豊明市教育委員会



# はじめに

私たちの生活は、都市化や高度情報化、交通機関等の充実により利便性が向上した一方で、価値観の変化や生活環境の多様化によって、生活におけるゆとりや潤いといった心の豊かさを求めるようになりました。



スポーツは、人々の自発的な意思に基づいて身体を動かしたいという人間の根源的な要求を満たすとともに、私たちに爽快感、達成感などの精神的な充実や、大きな感動、楽しさ、喜びを与えます。また、体力の向上や生活習慣病の予防など健康長寿の礎ともなり、生きがいや潤いをもたらします。さらには、青少年の健全育成や、地域社会の活性化の面においても、スポーツの持つ意義は、非常に大きいものがあります。

また、「スポーツ振興法」が50年ぶりに全面改正され、平成23年8月に「スポーツ基本法」が制定されたことを受けて、豊明市の現状と課題をもとに、生涯スポーツ社会の実現に向けて、市民、スポーツ関係団体、学校、企業、行政等が協働して、スポーツ推進に関わる施策を総合的、計画的に実行することが求められます。

そこで、豊明市では、スポーツの持つ多様な意義を踏まえ、スポーツを通じて、すべての市民が幸福で豊かな生活を営むことができる社会を目指し、「新しい公共」の考えのもと、豊明市スポーツ推進計画を策定いたしました。

今後は、この計画に従い「誰もが いつでも いつまでも 気軽にスポーツに取り組める生涯スポーツ社会のまち とよあけ」を基本理念に掲げ、新たな生涯スポーツ社会の実現に向けて取り組んでまいります。

終わりに、この計画の策定にあたり、熱心に議論を重ねていただいた豊明市スポーツ推進計画策定委員会の皆様をはじめ、アンケート調査にご協力いただいた方々や、パブリックコメント等によりご意見を寄せていただきました市民の皆様、ご協力いただきました関係者の皆様に対しまして、心より感謝を申し上げます。

平成25年3月

豊明市教育委員会 教育長

市 野 光 信



## 目次

第1章 計画の策定にあたって.....	1
1. 計画策定の趣旨.....	1
2. 計画の位置づけ.....	1
3. 計画の期間.....	2
4. 達成目標.....	2
第2章 現状と課題.....	3
1. 人口・世帯の状況.....	3
2. 小中学生の運動、スポーツの状況.....	4
3. 施設利用状況.....	6
4. スポーツに関する市民意識調査結果.....	13
5. スポーツ団体へのヒアリング調査.....	26
6. 豊明市のスポーツ推進に向けた課題のまとめ.....	29
第3章 基本的な考え方.....	31
1. 基本理念.....	31
2. 基本目標.....	31
3. 取り組み方針.....	32
4. 施策体系.....	33
5. 重点プロジェクト.....	34
第4章 施策の展開.....	38
1. 生涯にわたるスポーツ活動の推進.....	38
2. スポーツに取り組む環境の充実.....	48
3. ニーズに応じたスポーツ施設の整備.....	52
4. スポーツによる地域づくり.....	56
第5章 計画の推進に向けて.....	62
1. 計画の進捗管理.....	62
資料編.....	64
1. 豊明市スポーツ推進計画策定委員会.....	64
2. スポーツ推進計画策定検討プロジェクトチーム.....	66
3. 用語解説.....	67



# 第1章 計画の策定にあたって

## 1. 計画策定の趣旨

スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進のため、生涯にわたり心身とも健康で文化的な生活を営む上で不可欠なものです。また、スポーツを行うことで生まれる、人と人との交流、及び地域と地域との交流は、地域の一体感や活力を醸成するものです。

わが国では、これまで昭和36年に制定された「スポーツ振興法<sup>※</sup>」に基づき、国民の心身の健全な発達と明るく豊かな国民生活を形成するために、スポーツの振興を行ってきました。しかし、近年、少子高齢化、情報化の進展、地域社会の空洞化、人間関係の希薄化など、日本の社会情勢は著しく変化してきました。

そのため、スポーツによる健全育成や体力の向上だけでなく、協働による地域振興や、経済効果波及、健康で活力に満ちた長寿社会の創造、スポーツによる国際貢献や開発支援など、スポーツの個人的、社会的、経済的価値への期待がますます高まってきました。また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災以降では、復旧・復興の過程の中で、「社会の絆」の重要性が改めて認識されました。

こうした状況を踏まえ、制定から50年が経過した「スポーツ振興法」を見直し、新たに、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進し、国民の心身の健全な発達、明るく豊かな国民生活の形成、活力ある社会の実現及び国際社会の調和ある発展に寄与することを目的とした「スポーツ基本法<sup>※</sup>」が制定されました。この法律における役割を踏まえ、次世代を担う青少年が他者との協働と規律を学びつつ育成され、地域に深い絆が存在し、健康な長寿を享受できる社会、国際的にも尊敬される国づくりを具象化するために、平成24年3月に「スポーツ基本計画<sup>※</sup>」が策定されました。

本市では、「第4次豊明市総合計画<sup>※</sup> 後期基本計画」において生涯スポーツ・スポーツ振興を図ってきましたが、今後は、国の定める「スポーツ基本計画」を参酌するとともに、県の計画及び市の総合計画を踏まえながら、年齢や性別、障がい等を問わず、広く市民がその適性等に応じてスポーツに参画できるよう、中長期的な展望に立った「豊明市スポーツ推進計画」を策定します。

## 2. 計画の位置づけ

本計画は、国の「スポーツ基本計画」を参酌するとともに、県の計画及び「第4次豊明市総合計画<sup>※</sup>後期基本計画」をはじめ、本市の関連計画との整合性を図り、策定しています。

また、本計画では、「スポーツ」を幅広く捉え、競技種目だけにとどまらず、散歩やジョギング、レクリエーション、子どもの遊びなど、レベルや内容に関わらず、体を動かすすべての運動を含み、スポーツ分野の施策を体系化し、目指す方向や取り組みの内容を具体的に示しています。

### 3. 計画の期間

本計画は、平成 25 年度から平成 34 年度までの 10 年間を計画期間とします。また、今後の社会情勢の変化などに対応するため、計画の中間年度である平成 29 年度に計画の中間評価と内容の見直しを行います。

25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	32 年度	33 年度	34 年度
豊明市スポーツ推進計画 									
				中間 評価					最終 評価

### 4. 達成目標

スポーツに関する市民アンケート（平成 24 年 9 月調査）によると、本市の「週 1 日以上」のスポーツ実施率は 35.5%、愛知県では 27.4%（平成 24 年 7 月県政世論調査）、全国では 45.3%（平成 21 年 9 月 体力・スポーツに関する世論調査）となっており、県を上回っているものの、全国に比べ 9.8 ポイント低くなっています。国のスポーツ基本法では、「成人の週 1 回以上のスポーツ実施率が 3 人に 2 人以上」を目標にしており、県においては「愛知県スポーツ推進計画」で、「成人の週 1 回以上のスポーツ実施率 60%を目指す」と定めているため、本市においても県の目標と一致させ、目標を達成するよう、施策を推進していきます。

#### 【最終目標】

**成人の週 1 回以上のスポーツ実施率 60%以上**

【中間目標】 成人の週 1 回以上のスポーツ実施率 50%以上

#### 全国・愛知県とのスポーツ実施率の比較

豊明市（平成 24 年）	35.5%
愛知県（平成 24 年）	27.4%
全 国（平成 21 年）	45.3%

#### 県の目標値（愛知県スポーツ推進計画より）

県民が生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境づくりに努め、成人の週 1 回以上スポーツ実施率 60%を目標に掲げ、生涯スポーツ社会の実現を目指します。

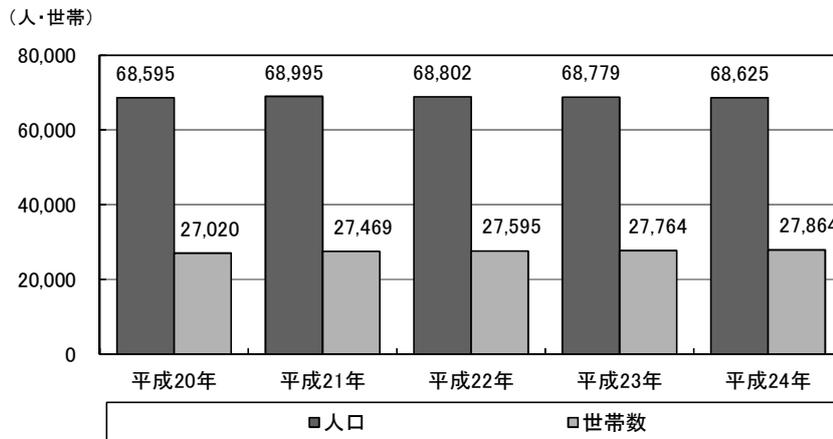
## 第2章 現状と課題

### 1. 人口・世帯の状況

#### (1) 人口・世帯の推移

本市の人口及び世帯数をみると、人口は減少傾向であり、平成24年には68,625人となっています。世帯数は増加しており、平成24年には27,864世帯となっています。

##### ■人口・世帯の推移

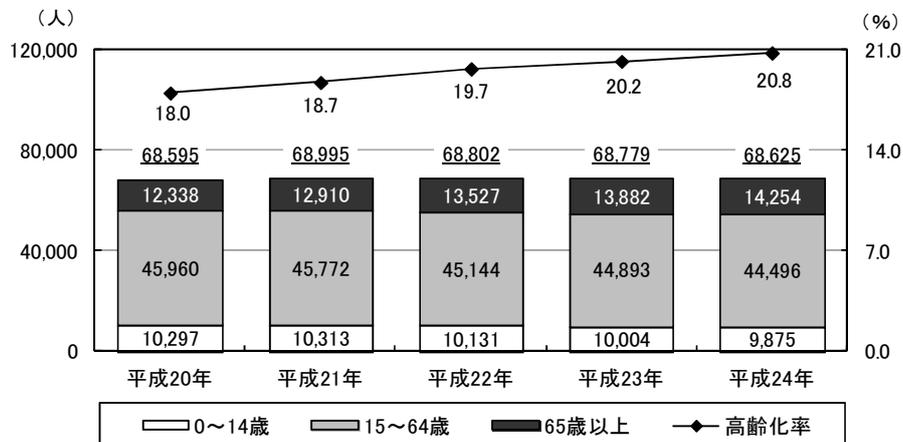


資料：市民課（各年1月1日）

#### (2) 年齢階層別人口の推移

年齢階層別人口の推移をみると、0～14歳人口、15～64歳人口が減少傾向にある一方で、65歳以上人口は増加し続けています。高齢化率は平成24年には20.8%と、5人に1人が高齢者となっており、心身機能の維持・向上、生きがいづくりという観点からも、高齢者に向けたスポーツ機会の充実が一層重要となっています。

##### ■年齢階層別人口の推移



資料：市民課（各年1月1日）

## 2. 小中学生の運動、スポーツの状況

体力テストの結果を平成18年度と平成24年度で比較すると、小学5年生、中学2年生ともに、向上している種目が多くみられます。しかし、全国の体力テストの結果と比較すると、まだ低い傾向がみられます。スポーツに親しむ機会づくりや学校での体育授業や部活動の充実など、小中学生の体力づくりが課題となっています。

### ■体力テストの結果

#### 小学5年生

種目	小学5年生男子		小学5年生女子	
	平成18年度	平成24年度	平成18年度	平成24年度
握力 (kg)	16.2	15.7	15.2	15.5
上体起こし (回)	18.2	18.6	16.2	16.6
長座体前屈 (cm)	32.0	35.0	34.3	37.5
反復横跳び (回)	38.2	39.8	35.5	37.4
20mシャトルラン (回)	50.5	52.8	37.7	39.9
50m走 (秒)	9.4	9.4	9.7	9.6
立ち幅跳び (cm)	150.5	151.6	143.3	145.0
ボール投げ (m)	23.0	23.8	13.4	13.9

資料：体力テスト比較

#### 中学2年生

種目	中学2年生男子		中学2年生女子	
	平成18年度	平成24年度	平成18年度	平成24年度
握力 (kg)	31.0	28.1	24.9	23.0
上体起こし (回)	27.7	28.0	23.2	22.6
長座体前屈 (cm)	48.5	43.1	47.5	45.5
反復横跳び (回)	51.3	51.3	46.0	46.7
持久走 (秒)	404.5	389.2	286.6	289.3
50m走 (秒)	8.0	7.9	8.8	8.8
立ち幅跳び (cm)	200.3	202.3	173.8	174.2
ボール投げ (m)	20.6	20.1	12.7	12.0

資料：体力テスト比較

〈参考〉

■体力テストの結果（全国）

小学5年生

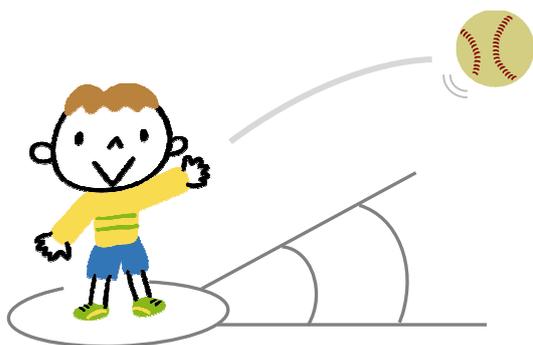
種目	小学5年生男子		小学5年生女子	
	平成18年度	平成23年度	平成18年度	平成23年度
握力（kg）	17.1	17.0	16.3	16.5
上体起こし（回）	19.9	19.7	18.1	18.4
長座体前屈（cm）	32.4	33.2	36.2	37.1
反復横跳び（回）	42.4	42.3	39.6	40.2
20mシャトルラン（回）	51.9	54.4	40.5	42.0
50m走（秒）	9.3	9.3	9.6	9.5
立ち幅跳び（cm）	156.2	154.5	147.8	146.2
ボール投げ（m）	26.2	25.5	15.2	14.7

資料：体力・運動能力調査

中学2年生

種目	中学2年生男子		中学2年生女子	
	平成18年度	平成23年度	平成18年度	平成23年度
握力（kg）	31.1	30.6	24.0	24.1
上体起こし（回）	27.3	27.8	22.6	23.2
長座体前屈（cm）	44.1	44.6	44.1	45.8
反復横跳び（回）	51.8	52.9	45.6	47.0
持久走（秒）	386.7	376.3	287.3	282.3
50m走（秒）	7.9	7.8	8.8	8.7
立ち幅跳び（cm）	199.3	201.2	169.2	172.1
ボール投げ（m）	22.3	22.1	13.9	14.0

資料：体力・運動能力調査



### 3. 施設利用状況

#### (1) 各種スポーツ施設利用状況

グラウンド利用状況をみると、平成21年度と比べて平成23年度では、利用人数は「勅使グラウンド」「山田グラウンド」以外の施設で増加しています。利用回数は「落合公園グラウンド」「唐竹公園グラウンド」「椎池グラウンド」で増加しています。

全体では、利用人数は10,870人、利用回数は85回増加しています。

#### ■グラウンド利用状況

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
勅使グラウンド	利用人数(人)	15,999	14,752	14,158
	利用回数(回)	274	283	247
	利用日数(日)	135	136	135
山田グラウンド	利用人数(人)	4,445	4,276	4,191
	利用回数(回)	61	56	57
	利用日数(日)	50	54	47
中央公園グラウンド	利用人数(人)	32,763	30,292	37,863
	利用回数(回)	715	692	659
	利用日数(日)	363	360	361
落合公園グラウンド	利用人数(人)	30,045	33,406	30,619
	利用回数(回)	850	878	867
	利用日数(日)	357	359	361
唐竹公園グラウンド	利用人数(人)	10,631	13,503	13,943
	利用回数(回)	529	595	660
	利用日数(日)	351	357	353
西川公園グラウンド	利用人数(人)	8,829	9,712	11,365
	利用回数(回)	531	545	529
	利用日数(日)	338	339	329
椎池グラウンド	利用人数(人)	16,354	15,182	17,797
	利用回数(回)	512	511	538
	利用日数(日)	353	355	360
合計	利用人数(人)	119,066	121,123	129,936
	利用回数(回)	3,472	3,560	3,557
	利用日数(日)	1,947	1,960	1,946

資料：体育施設利用状況表

テニスコート利用状況をみると、平成21年度と比べて平成23年度では、利用人数は「勅使テニスコート」以外の施設で増加しています。利用回数は「落合公園テニスコート」のみ増加しています。

全体では、利用人数は1,035人増加し、利用回数は874回減少しています。

■テニスコート利用状況

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
勅使 テニスコート	利用人数(人)	20,484	22,462	18,975
	利用回数(回)	2,484	2,263	1,832
	利用日数(日)	293	283	258
落合公園 テニスコート	利用人数(人)	4,609	6,637	6,051
	利用回数(回)	672	710	685
	利用日数(日)	357	356	361
西川公園 テニスコート	利用人数(人)	3,936	4,571	4,274
	利用回数(回)	622	593	489
	利用日数(日)	303	293	265
浄化センター テニスコート	利用人数(人)	4,045	3,947	4,440
	利用回数(回)	809	681	751
	利用日数(日)	319	293	326
改善センター テニスコート	利用人数(人)	4,095	4,244	4,464
	利用回数(回)	595	541	551
	利用日数(日)	219	227	218
合計	利用人数(人)	37,169	41,861	38,204
	利用回数(回)	5,182	4,788	4,308
	利用日数(日)	1,491	1,452	1,428

資料：体育施設利用状況表

勅使ターゲット・バードゴルフ\*場利用状況をみると、平成21年度と比べて、平成23年度では利用人数は450人、利用回数は1,055回減少しています。

■勅使ターゲット・バードゴルフ場利用状況

		平成21年度	平成22年度	平成23年度
勅使 ターゲット・バードゴルフ場	利用人数(人)	6,377	6,877	5,927
	利用回数(回)	4,024	3,940	2,969
	利用日数(日)	296	290	281

資料：体育施設利用状況表

勅使弓道場利用状況をみると、平成 21 年度と比べて平成 23 年度では、利用人数は 208 人、利用回数は 380 回増加しています。

■勅使弓道場利用状況

		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
勅使弓道場	利用人数（人）	4,273	4,370	4,481
	利用回数（回）	2,989	3,251	3,369
	利用日数（日）	285	304	308

資料：体育施設利用状況表

夜間照明施設利用状況をみると、平成 21 年度と比べて平成 23 年度では、利用人数は「豊中グラウンド」でわずかに増加しています。利用回数は、すべての施設で減少しています。

全体では、利用人数は 1,084 人、利用回数は 283 回減少しています。

■夜間照明施設利用状況

		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
勅使テニスコート	利用人数（人）	3,494	3,074	2,733
	利用回数（回）	649	513	423
	利用日数（日）	211	205	191
勅使グラウンド	利用人数（人）	2,810	2,429	2,472
	利用回数（回）	91	153	86
	利用日数（日）	78	80	75
豊中グラウンド	利用人数（人）	2,657	2,720	2,672
	利用回数（回）	165	134	113
	利用日数（日）	165	134	113
合計	利用人数（人）	8,961	8,223	7,877
	利用回数（回）	905	800	622
	利用日数（日）	454	419	379

資料：体育施設利用状況表

福祉体育館利用状況をみると、平成 21 年度と比べて平成 23 年度では、利用人数は「アリーナ」「柔道場」「剣道場」で増加しています。

全体では、利用人数は 3,654 人増加しています。

■福祉体育館利用状況

		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
アリーナ	利用人数 (人)	48,174	51,994	48,599
卓球場	利用人数 (人)	13,238	11,794	11,816
トレーニングルーム	利用人数 (人)	22,257	20,398	20,239
柔道場	利用人数 (人)	11,737	13,254	14,783
剣道場	利用人数 (人)	10,940	12,771	13,766
合計	利用人数 (人)	109,726	114,212	113,380

資料：福祉体育館利用状況表

■勅使グラウンド



■勅使テニスコート



■福祉体育館



■弓道場



## (2) 学校体育施設スポーツ開放

小学校昼間体育館の利用率をみると、平成 23 年度では「豊明小学校」「双峰小学校」「大宮小学校」で、全体に比べて低くなっています。利用団体数の推移をみると、ほぼすべての小学校で利用団体数が大幅に増加しています。

全体では、平成 21 年度と比べて平成 23 年度では、利用率は 6.8 ポイント減少しているものの、利用団体数は 289 団体増加しています。

### ■小学校昼間体育館利用率・利用団体数の推移

		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
豊明小学校	利用率 (%)	65.5	62.1	68.8
	利用団体数 (団体)	45	95	99
中央小学校	利用率 (%)	81.5	80.4	82.1
	利用団体数 (団体)	68	127	127
沓掛小学校	利用率 (%)	87.9	79.1	82.0
	利用団体数 (団体)	77	123	121
栄小学校	利用率 (%)	98.3	93.9	92.8
	利用団体数 (団体)	97	195	181
双峰小学校	利用率 (%)	90.2	64.6	71.2
	利用団体数 (団体)	77	82	107
大宮小学校	利用率 (%)	83.0	60.5	68.5
	利用団体数 (団体)	132	92	102
唐竹小学校	利用率 (%)	91.0	75.4	89.0
	利用団体数 (団体)	147	111	153
三崎小学校	利用率 (%)	90.3	78.9	82.0
	利用団体数 (団体)	193	189	184
館小学校	利用率 (%)	90.9	84.2	84.7
	利用団体数 (団体)	127	203	178
全体	利用率 (%)	86.9	75.4	80.1
	利用団体数 (団体)	963	1,217	1,252

資料：学校体育施設スポーツ開放利用実績表

※体育館の工事等の影響により、利用団体数については大きく変動することがあります。

小学校屋間運動場の利用率をみると、平成 23 年度では「豊明小学校」「中央小学校」「沓掛小学校」で、全体に比べて低くなっています。利用団体数の推移をみると、「大宮小学校」で大幅に増加しています。

全体では、平成 21 年度と比べて平成 23 年度では、利用率は 4.3 ポイント減少しており、利用団体数はほぼ横ばいとなっています。

■小学校屋間運動場利用率・利用団体数の推移

		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
豊明小学校	利用率 (%)	69.5	71.6	66.7
	利用団体数 (団体)	64	136	81
中央小学校	利用率 (%)	91.2	87.6	86.1
	利用団体数 (団体)	223	138	171
沓掛小学校	利用率 (%)	100.0	89.2	80.9
	利用団体数 (団体)	149	140	114
栄小学校	利用率 (%)	100.0	96.5	98.2
	利用団体数 (団体)	131	129	132
双峰小学校	利用率 (%)	99.1	84.7	98.2
	利用団体数 (団体)	135	95	139
大宮小学校	利用率 (%)	94.6	96.5	98.3
	利用団体数 (団体)	158	199	207
唐竹小学校	利用率 (%)	98.2	94.8	98.2
	利用団体数 (団体)	130	135	138
三崎小学校	利用率 (%)	90.2	89.5	91.2
	利用団体数 (団体)	123	129	129
舘小学校	利用率 (%)	100.0	83.5	98.2
	利用団体数 (団体)	212	180	213
全体	利用率 (%)	95.0	88.2	90.7
	利用団体数 (団体)	1,325	1,281	1,324

資料：学校体育施設スポーツ開放利用実績表

小学校夜間体育館の利用率をみると、平成 23 年度では「豊明小学校」「栄小学校」「双峰小学校」「大宮小学校」「舘小学校」で、全体に比べて低くなっています。利用団体数の推移をみると、ほぼすべての小学校で大幅に増加しています。

全体では、平成 21 年度と比べて平成 23 年度では、利用率は 6.8 ポイント減少しているものの、利用団体数は 488 団体増加しています。

■小学校夜間体育館利用率・利用団体数の推移

		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
豊明小学校	利用率 (%)	27.8	39.6	43.2
	利用団体数 (団体)	28	111	89
中央小学校	利用率 (%)	74.6	62.4	65.6
	利用団体数 (団体)	54	131	138
沓掛小学校	利用率 (%)	35.4	42.0	73.7
	利用団体数 (団体)	29	113	66
栄小学校	利用率 (%)	91.1	58.9	34.6
	利用団体数 (団体)	66	119	126
双峰小学校	利用率 (%)	71.7	50.0	46.4
	利用団体数 (団体)	45	116	113
大宮小学校	利用率 (%)	56.6	61.8	52.4
	利用団体数 (団体)	140	175	151
唐竹小学校	利用率 (%)	67.2	44.3	54.5
	利用団体数 (団体)	112	104	143
三崎小学校	利用率 (%)	62.3	50.3	60.2
	利用団体数 (団体)	109	130	140
舘小学校	利用率 (%)	66.7	45.3	45.1
	利用団体数 (団体)	51	114	121
全体	利用率 (%)	59.5	50.8	52.7
	利用団体数 (団体)	599	1,050	1,087

資料：学校体育施設スポーツ開放利用実績表

市のスポーツ施設は、グラウンド、テニスコート、勅使弓道場、福祉体育館で利用が増加しています。学校体育施設でも利用率が高く、運動場では9割を超えている学校も多くなっています。学校施設の開放日の増加に伴い、特に夜間体育館で利用団体数が増加しており、今後も市のスポーツ施設の補完的な施設として利用意向が高まることが予想されます。

## 4. スポーツに関する市民意識調査結果

市民のスポーツに関する意識などを把握し、本計画策定のための基礎資料とすることを目的に意識調査を実施しました。概要は以下の通りです。

- ・調査地域 : 豊明市全域
- ・調査対象者 : 豊明市内在住の18歳以上市民
- ・調査期間 : 平成24年9月11日～9月24日
- ・調査方法 : 郵送配布・郵送回収による郵送調査法
- ・回収状況 : 下表参照

対象者	配布数	回収数	回収率
18歳以上市民	3,000	1,359	45.3%



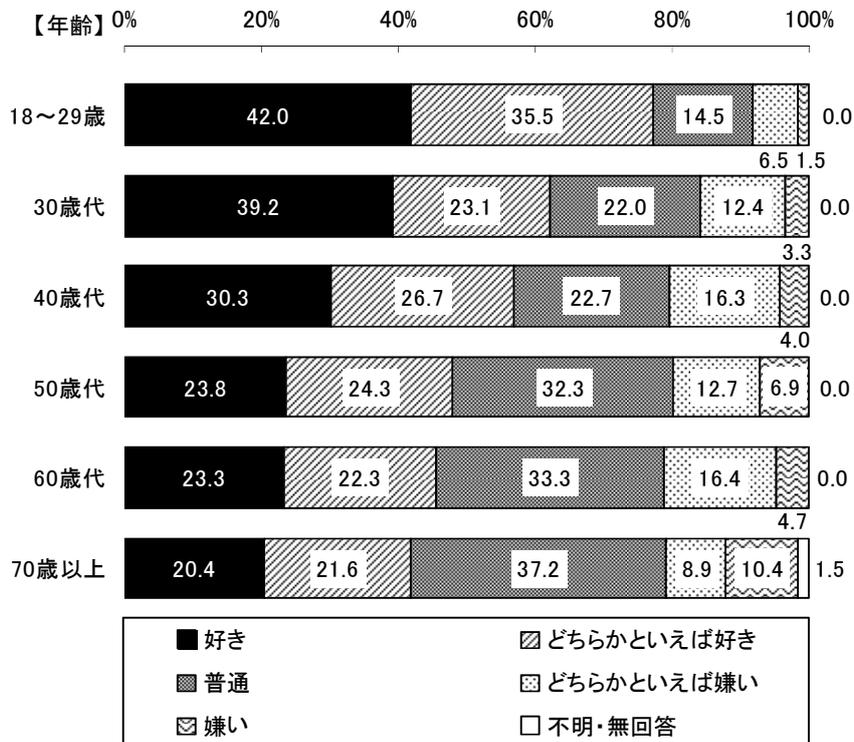
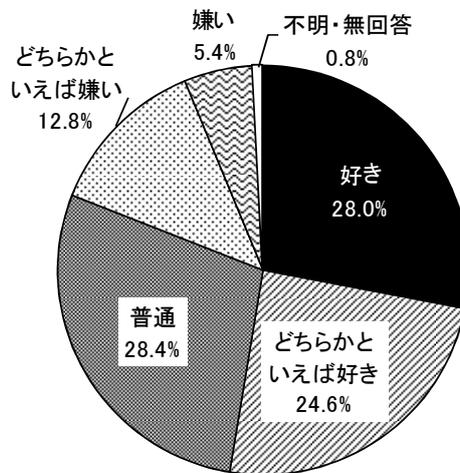
## (1) 市民のスポーツの状況について

### ①スポーツへの関心

○スポーツ実施については、『好き』(「好き」「どちらかといえば好き」を合わせた割合)が52.6%、「普通」が28.4%、『嫌い』(「どちらかといえば嫌い」「嫌い」を合わせた割合)が18.2%となっています。

年齢別では、『好き』の割合は18～29歳で77.5%と最も高く、年齢が上がるにしたがい低くなっています。

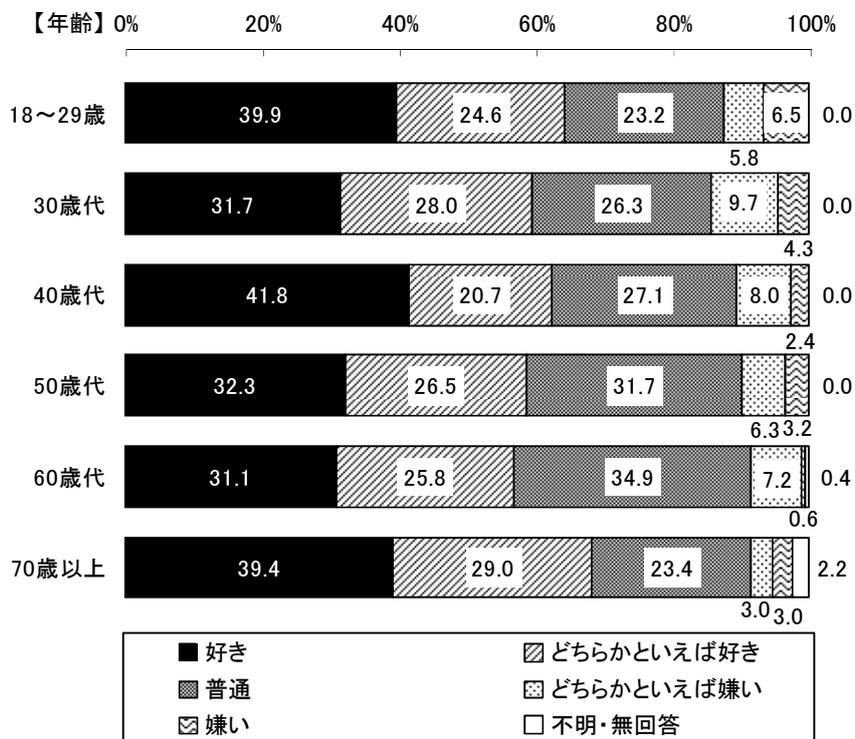
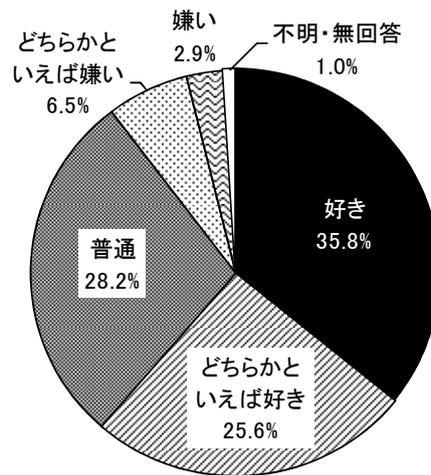
### ■スポーツ実施の好き嫌い



○スポーツ観戦については、『好き』(「好き」「どちらかといえば好き」を合わせた割合)が61.4%、「普通」が28.2%、『嫌い』(「どちらかといえば嫌い」「嫌い」を合わせた割合)が9.4%となっています。

年齢別では、『好き』の割合は70歳以上で68.4%と最も高くなっています。

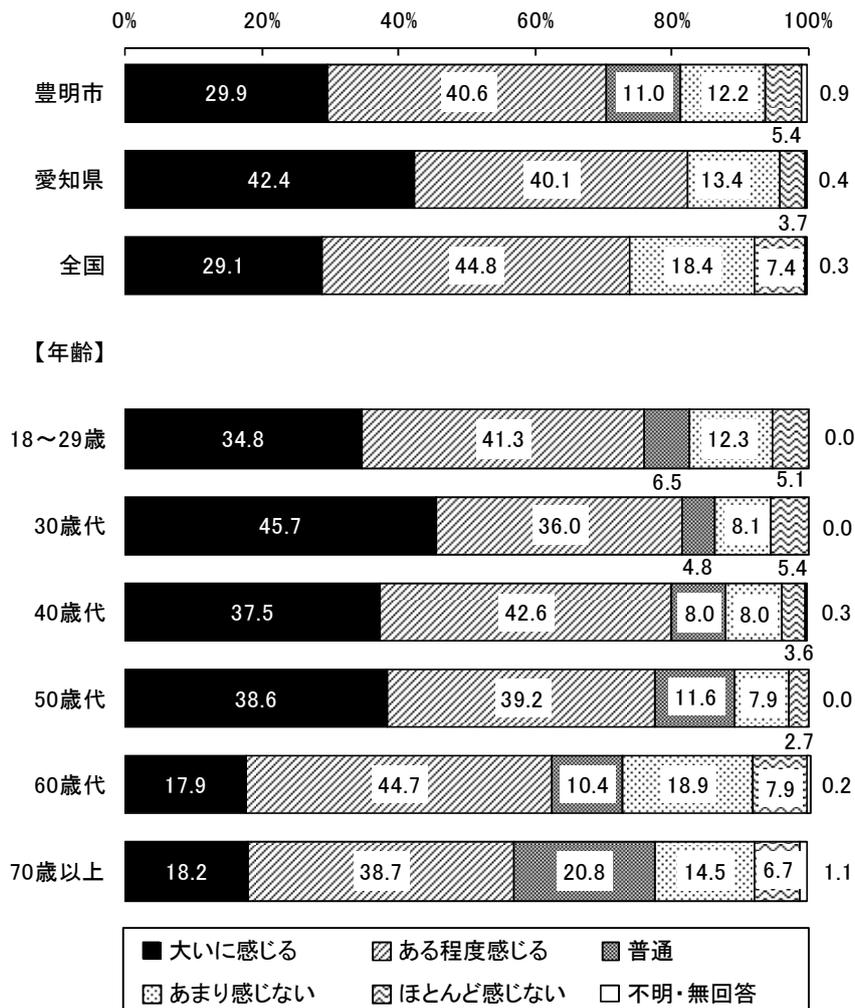
■スポーツ観戦の好き嫌い



## ②スポーツの実施状況

○運動不足を感じているかについては、『感じる』（「大いに感じる」「ある程度感じる」を合わせた割合）が70.5%と、『感じない』（「あまり感じない」「ほとんど感じない」を合わせた割合）の17.6%を大幅に上回っています。全国や愛知県と比較すると、『感じない』の割合が全国に比べて低くなっています。年齢別では、『感じる』が30歳代で81.7%と最も高く、次いで40歳代となっており、働き盛り世代で運動不足を感じる人の割合が高くなっています。

### ■運動不足を感じるか

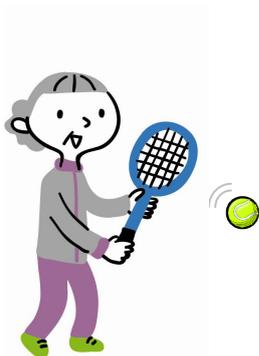
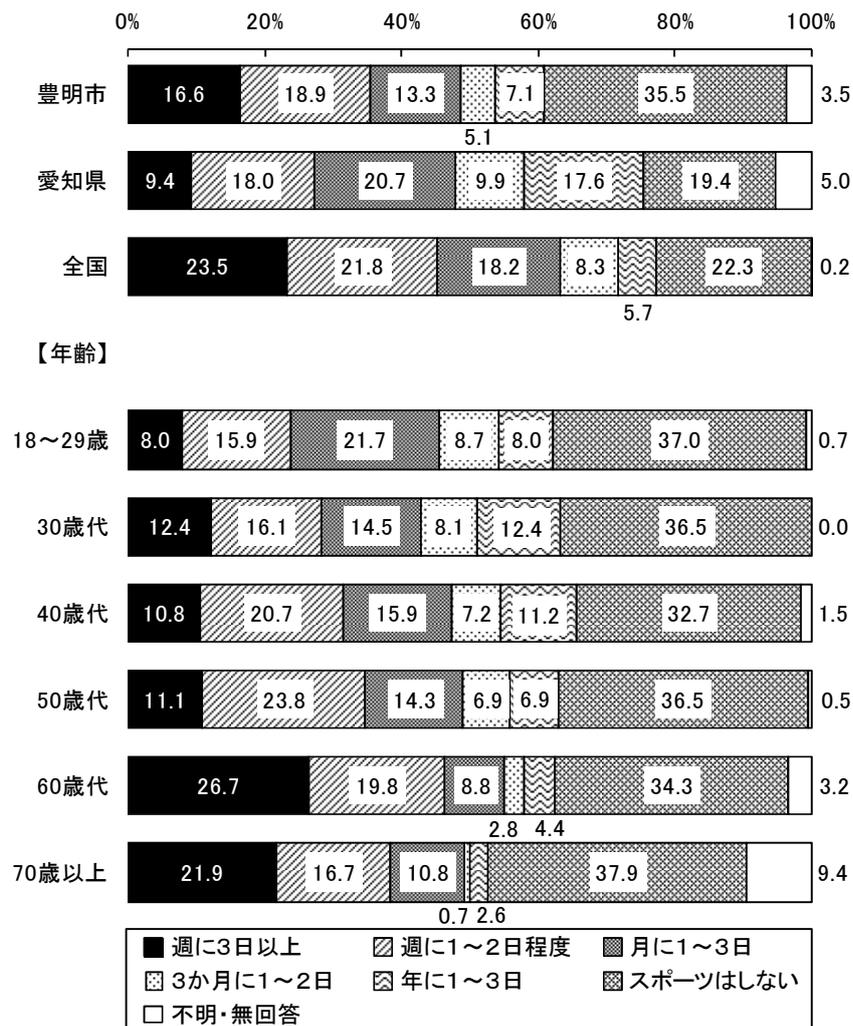


※愛知県・全国では「普通」の項目がなく、また、市の「不明・無回答」を「わからない」で置き換えている。

○スポーツの実施頻度については、『週に1日以上』（「週に3日以上」「週に1～2日程度」を合わせた割合）が60歳代で46.5%と最も高くなっています。若い世代ほど『週に1日以上』の割合が低くなっており、スポーツをする習慣が定着していないことがうかがえます。

また、全国や愛知県と比較すると、『週に1回以上』の割合は、全国よりも低く、愛知県よりも高くなっています。しかし、「スポーツはしない」の割合は、全国、愛知県ともに上回っており、スポーツを実施する人とししない人の二極化が進んでいます。

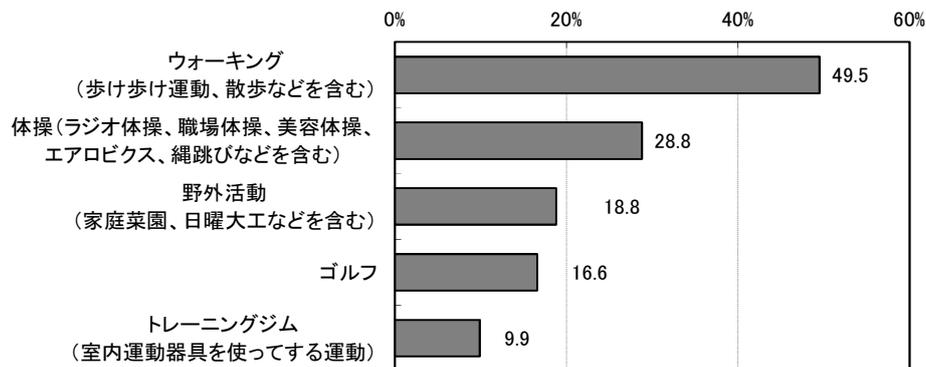
■スポーツの実施頻度



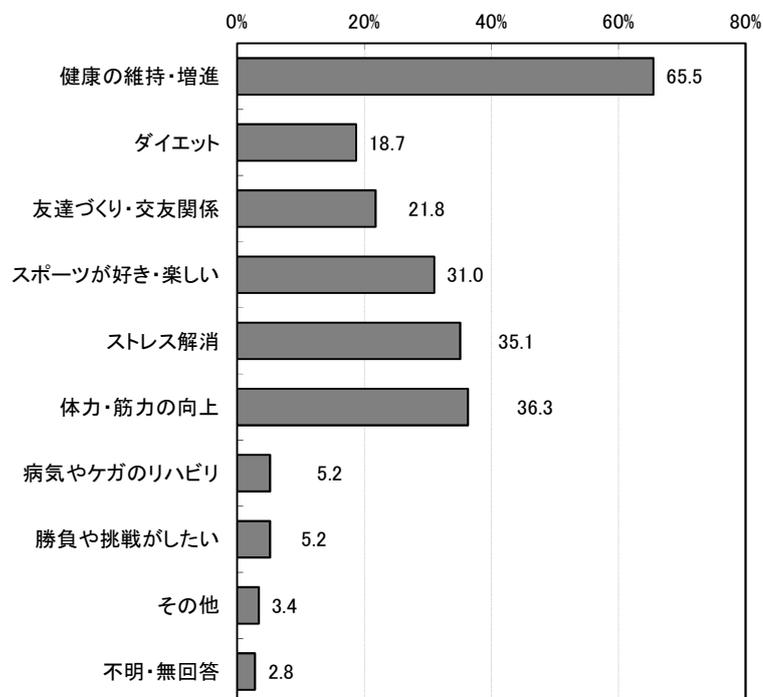
○現在行っているスポーツの種目については、「ウォーキング」が49.5%と最も高く、次いで「体操」が28.8%となっています。日常的に行いやすいものが上位となっています。

○スポーツを行っている理由については、「健康の維持・増進」が65.5%と最も高く、次いで「体力・筋力の向上」が36.3%となっています。

■行っている種目（上位5種目）

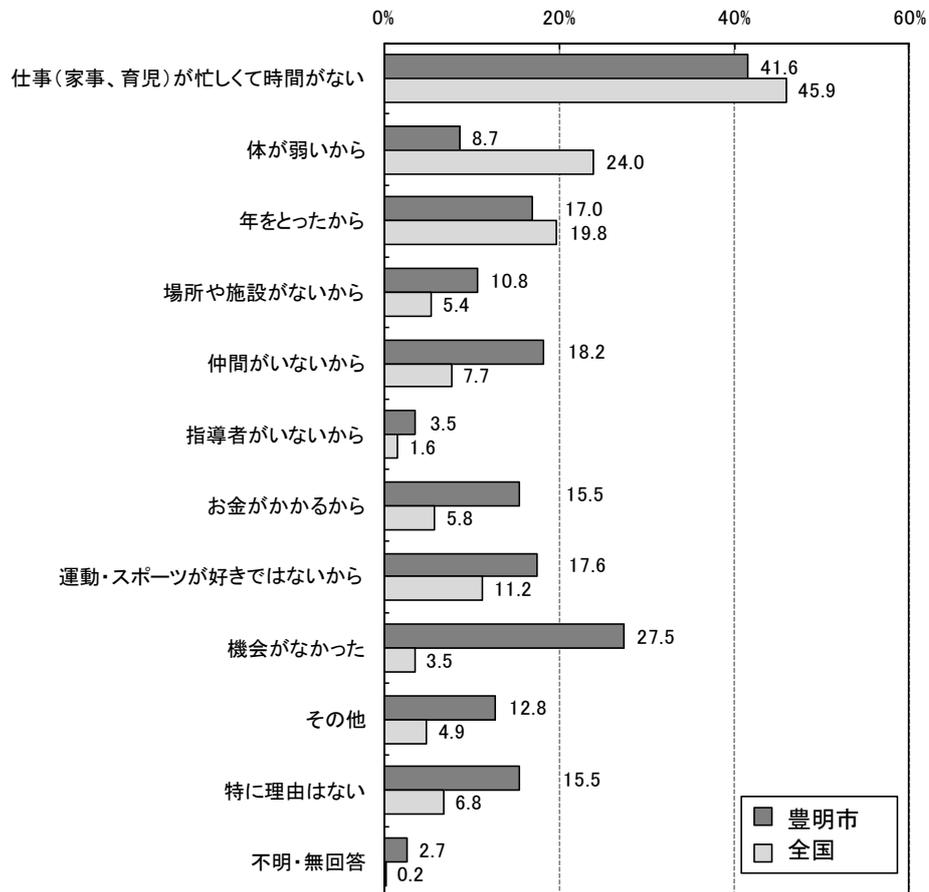


■行っている理由



○スポーツをしない理由については、「仕事（家事、育児）が忙しくて時間がない」が41.6%、次いで「機会がなかった」が27.5%となっています。全国と比較すると、「機会がなかった」が多くなっており、スポーツをする機会の拡充が必要となっています。

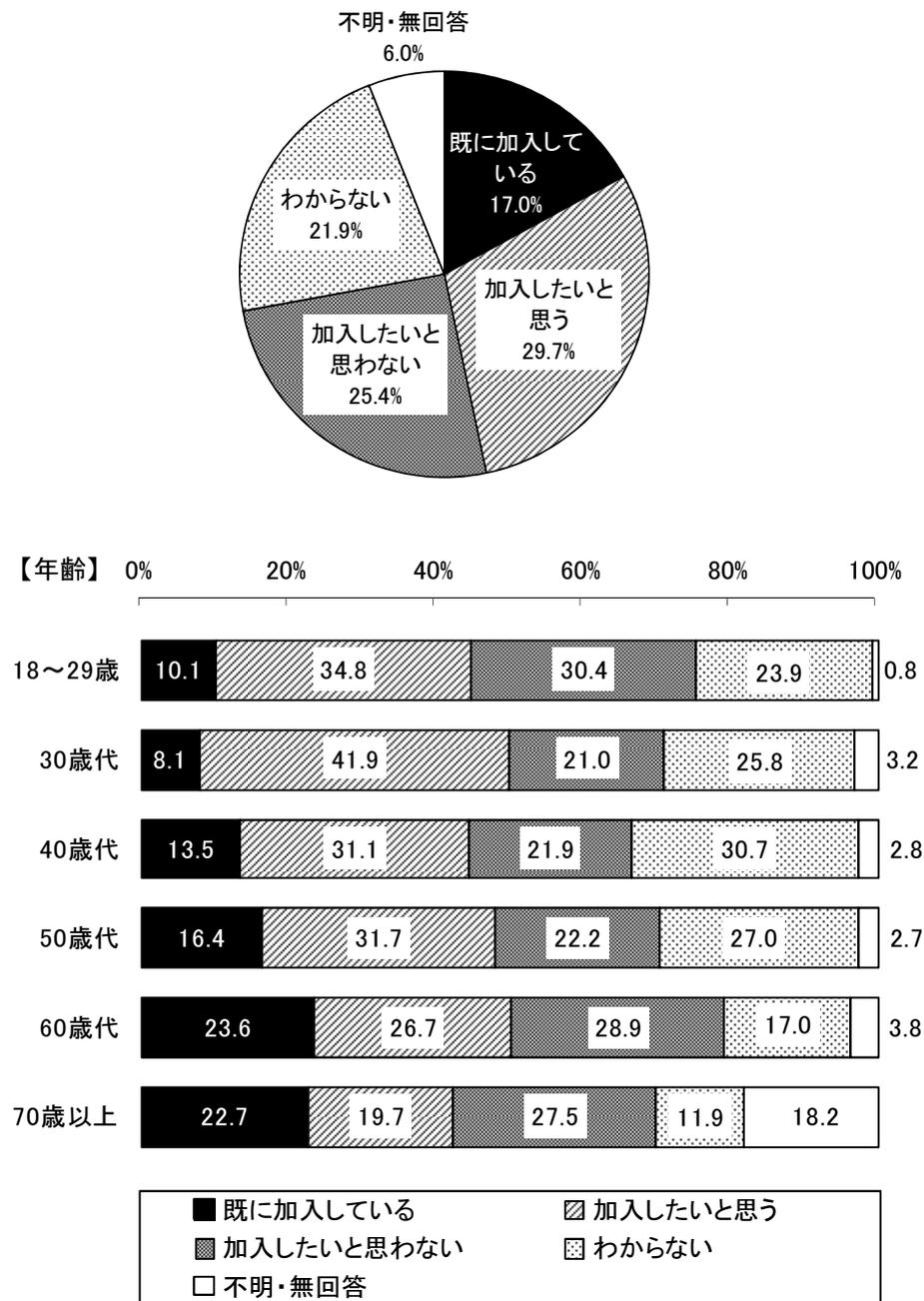
■スポーツをしない理由



### ③今後のスポーツ実施意向

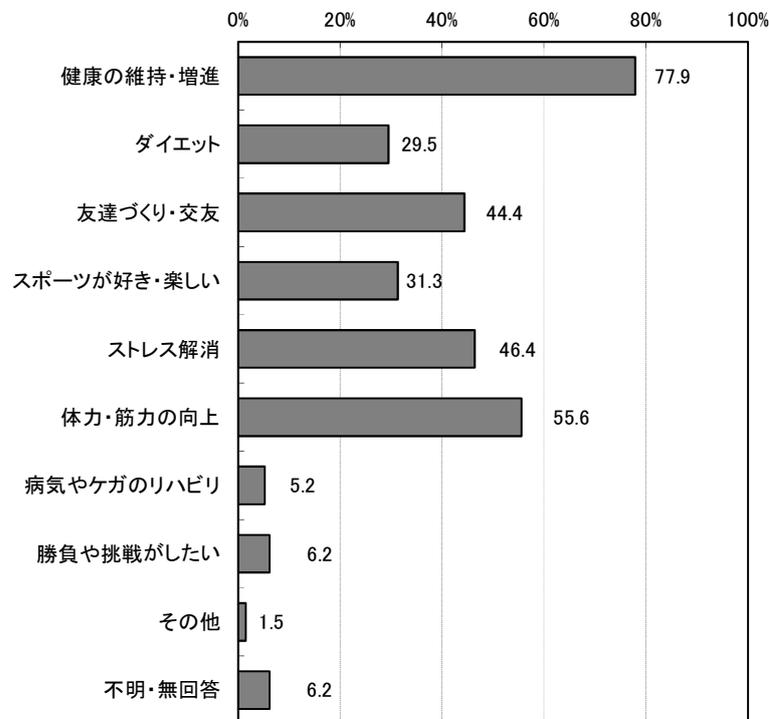
○スポーツクラブや同好会への加入意向については、「既に参加している」が17.0%、「参加したいと思う」が29.7%、「参加したいと思わない」が25.4%となっています。年齢別では、「既に参加している」が60歳代で23.6%と最も高くなっています。18～29歳、30歳代の若い年代では、「既に参加している」が低くなっていますが、「参加したいと思う」は30歳代で41.9%と最も高く、参加意向は若い世代においても高くなっています。

#### ■スポーツクラブや同好会への加入意向



○加入後のスポーツ実施の目的については、「健康の維持・増進」が77.9%となっています。性別では、「体力・筋力の向上」が男性に比べ、女性で12.1ポイント上回っています。年齢別では、「健康の維持・増進」が50歳代で88.3%と最も高くなっています。

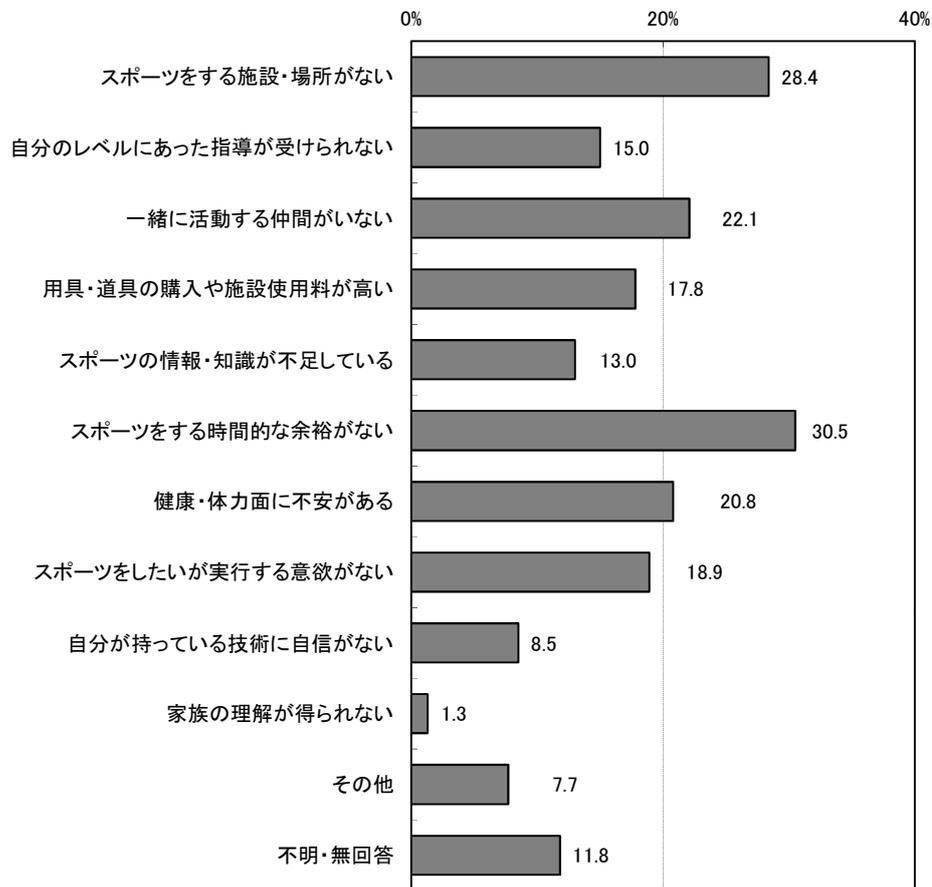
■加入後のスポーツ実施の目的



	健康の維持・増進	ダイエット	友達づくり・交友	スポーツが好き・楽しい	ストレス解消	体力・筋力の向上	病気やケガのリハビリ	勝負や挑戦がしたい	その他	不明・無回答
【性別】										
男性	73.4	15.8	39.2	41.1	38.6	48.1	5.1	6.3	1.3	7.0
女性	81.3	39.0	48.1	24.9	52.3	60.2	5.0	6.2	1.7	5.4
【年齢別】										
18～29歳	60.4	47.9	43.8	64.6	56.3	50.0	4.2	10.4	-	2.1
30～39歳	73.1	34.6	51.3	39.7	59.0	55.1	-	10.3	2.6	3.8
40～49歳	79.5	42.3	47.4	33.3	57.7	57.7	3.8	6.4	-	2.6
50～59歳	88.3	33.3	38.3	16.7	46.7	63.3	3.3	1.7	-	5.0
60～69歳	83.5	14.1	47.1	21.2	38.8	63.5	8.2	7.1	1.2	8.2
70歳以上	79.2	7.5	34.0	18.9	15.1	37.7	13.2	-	5.7	15.1

○スポーツを実施する上での問題点については、「スポーツをする時間的な余裕がない」が30.5%、次いで「スポーツをする施設・場所がない」が28.4%となっています。

### ■スポーツを実施する上での問題点



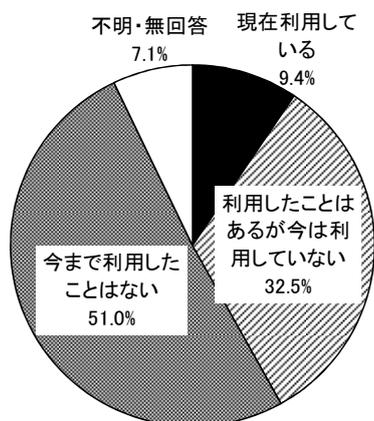
## (2) スポーツ環境について

### ①スポーツ施設

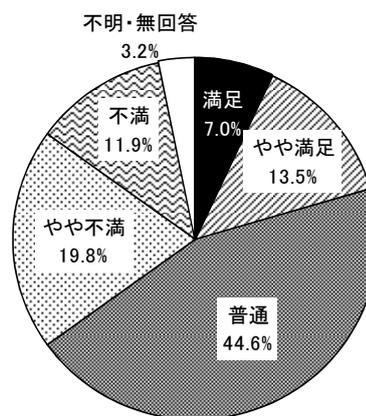
○市の公共スポーツ施設の利用状況については、「現在利用している」が9.4%、「利用したことはあるが今は利用していない」が32.5%、「今まで利用したことはない」が51.0%となっています。

○市の公共スポーツ施設の満足度については、『満足』（「満足」「やや満足」を合わせた割合）が20.5%、「普通」が44.6%、『不満』（「やや不満」「不満」を合わせた割合）が31.7%となっています。

■市の公共スポーツ施設の利用状況

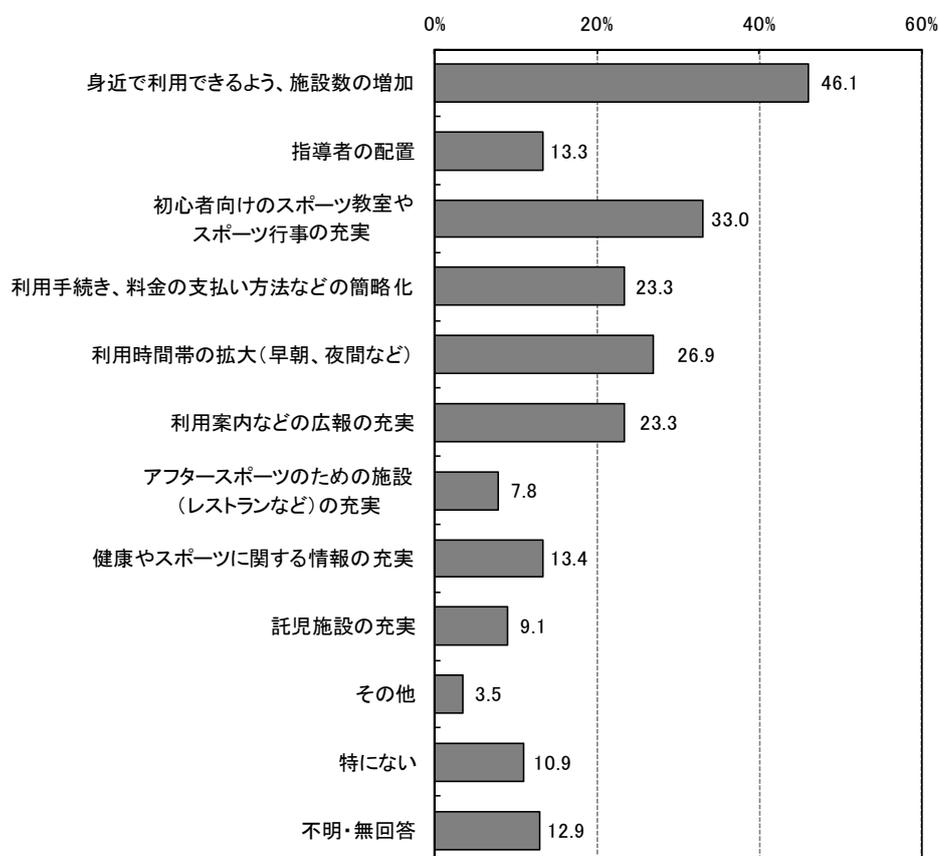


■市の公共スポーツ施設の満足度



○公共スポーツ施設に望むことについては、「身近で利用できるよう、施設数の増加」が46.1%と最も高く、次いで「初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実」が33.0%となっています。

■公共スポーツ施設に望むこと



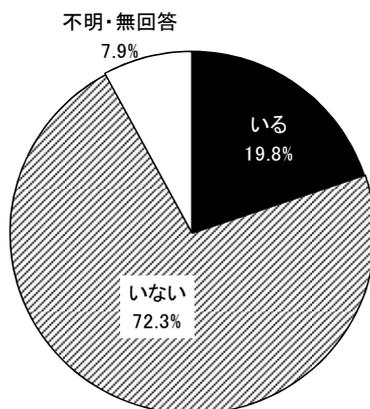
## ②指導者

○スポーツをする際の指導者の有無については、「いない」が72.3%となっています。

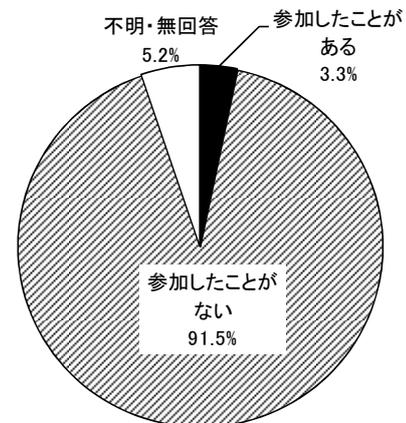
○指導者になるための講習会などへの参加については、「参加したことがない」が91.5%となっています。

○スポーツ指導者に望むことについては、「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心がわくような指導ができる人」が54.2%と最も高く、次いで「健康・体力づくりのための運動やスポーツの指導ができる人」が46.1%となっています。

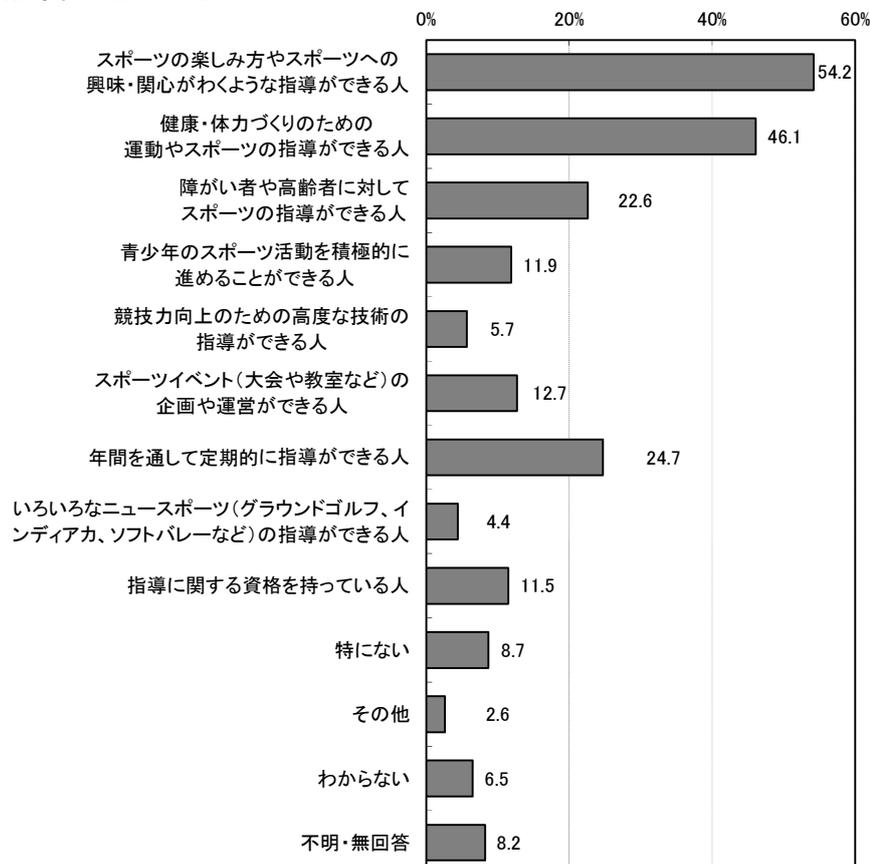
■スポーツをする際の指導者の有無



■指導者になるための講習会などへの参加



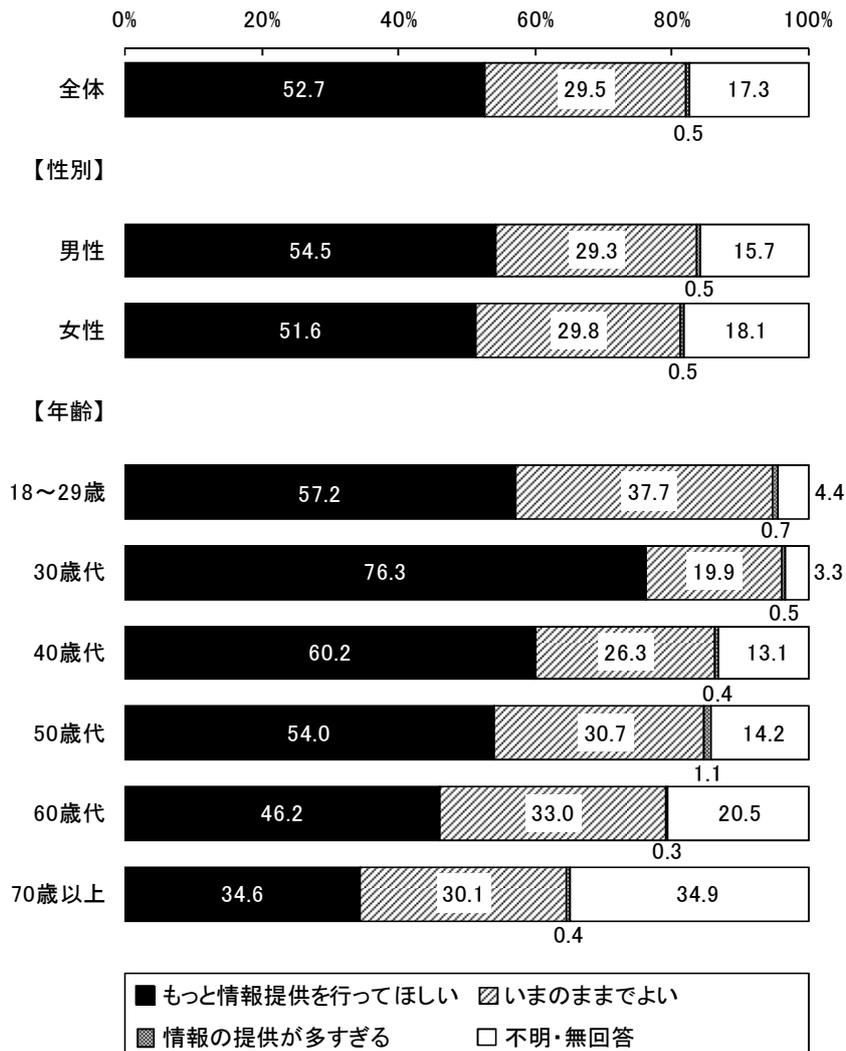
■スポーツ指導者に望むこと



### ③情報提供

○スポーツに関する広報や情報提供については、全体で「もっと情報提供を行ってほしい」が52.7%となっています。性別では、女性に比べ、男性で2.9ポイント上回っています。年齢別では、「もっと情報提供を行ってほしい」が若い世代で高くなっており、30歳代で76.3%と最も高くなっています。

#### ■スポーツに関する広報や情報提供について



## 5. スポーツ団体へのヒアリング調査

### (1) 子どものスポーツの状況について

#### 現状・課題

- 体育以外であまり運動をしない子どもが、運動に関心を持ってもらえるように取り組んでいる。
- 小学生のときに外に多く出て遊んでいた子どもの方が、中学生では運動能力が高い。
- 思春期には精神面の指導も行っていく必要がある。
- 子どもだけで遊べる場所が少ない。

#### 要望等

- 小学生の頃からスポーツに親しむ環境をつくる必要がある。
- 小・中学生の部活動への取り組みを市が支援してほしい。
- 子どもに、競技スポーツだけでなく、レクリエーション種目にも参加してほしい。
- スポーツを通じて、相手の痛みがわかり、礼儀をわきまえる人間に育ててほしい。
- 試合に勝つことも必要だが、子どもの頃は成長過程を大事にしてほしい。

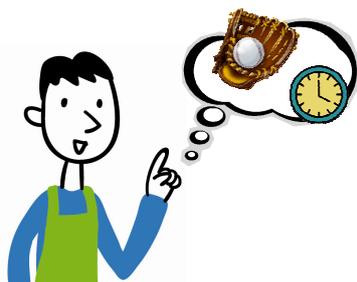
### (2) 働く世代のスポーツの状況について

#### 現状・課題

- 学校を卒業後に、継続してスポーツに取り組める環境が整っていない。
- 若者が気軽に利用できる施設が少ない。
- 少ない人数でもできるスポーツに人気がある。
- 職場でもスポーツをしない人が増えている。
- 趣味の多様化でスポーツに目が向かない人が多い。

#### 要望等

- 仕事をしている人が施設を利用しやすいように、早朝や夜間など利用時間を拡大してほしい。
- 若者を対象としたスポーツ教室を開催してほしい。
- 30歳代のスポーツ教室への参加が少ないので、広報などで呼びかけてほしい。
- 若者向けのスポーツ情報を提供してほしい。
- 仕事とスポーツの両立ができるような取り組みをしてほしい。



### (3) 高齢者・障がい者のスポーツの状況について

#### 現状・課題

- スポーツをしている高齢者は元気な人が多い。
- 市内では障がい者が運動できる場や大会がない。
- 障がい者対象のスポーツ施設がない。
- 障がい者に対する施設、環境が整備されていない。
- 指導者の体制が構築されていない。
- 高齢者や障がい者を含めて、少しでも多くの人がスポーツを楽しめる環境づくりが大切。

#### 要望等

- 障がい者がスポーツに取り組めるよう、人的な整備が必要。
- 障がい者が県全体の大会などに参加するための支援や協力が必要。
- 健常者と一緒に参加できるよう呼びかけてほしい。

### (4) 指導者の状況について

#### 現状・課題

- 指導者が高齢化している。
- 若い指導者は仕事や家庭などの都合があり、時間が取れない。
- PR 不足もあり指導者の活用の場が不足している。
- 指導者講習会などを受けて指導者資格を取っても、活用する機会がない。
- 指導者には、技術だけでなく、人間性も求められている。
- 指導者の育成ができていない。
- 学校と、指導者とのコミュニケーションが不足している。

#### 要望等

- さまざまなスポーツ教室を開催するために、指導者を充実させる必要がある。
- 高いスキルを持った経験者もおり、指導者として活動してほしい。
- 指導者の意見交換会を実施してほしい。
- 指導者の活動場所を増やしてほしい。
- 複数人の指導者を部活動に派遣することにより、生徒にきめ細かな技術指導をしていきたい。
- 市が指導者育成のための環境を整えてほしい。



## (5) スポーツ施設の状況について

### 現状・課題

- 総合運動公園のような地域の人が集える場所がない。
- スポーツ施設の維持・管理が不十分。
- スポーツ施設が少ない。
- 勅使グラウンドとテニスコートの状態が悪い。
- 学校の体育館やグラウンドは利用率が高い。
- さまざまな種目に対応できる施設が少ない。
- 市内には、十分な広さのあるグラウンドが少ない。
- 施設利用の手続きが煩雑である。
- 利用者のマナーが良くない。
- 施設の予約が取りにくい。
- 施設の駐車場が少ない。

### 要望等

- 満足にスポーツが行えるよう施設の改修を進めてほしい。
- 学校の施設開放は今後も継続してほしい。
- 新しいスポーツ施設を作してほしい。
- 勅使グラウンドとテニスコートの改修を早く行ってほしい。
- 公園や広場でもスポーツが行えるようにしてほしい。
- 公共施設の利用手続きを簡単にしてほしい。
- 施設の利用料金を安くしてほしい。
- 有料施設では利用料金を積み立てて、施設の改修を行ってほしい。
- 託児サービスを行ってほしい。

## (6) 情報提供・発信について

### 現状・課題

- 団体の取り組みを十分に情報発信できていない。
- 体育協会や各団体の専用ホームページがなく、情報発信が十分にできていない。

### 要望等

- 市の広報紙にスポーツのコーナーを設けてほしい。
- ホームページを立ち上げてほしい。

## 6. 豊明市のスポーツ推進に向けた課題のまとめ

### (1) 生涯にわたってスポーツに取り組むために

生涯にわたってスポーツに取り組むために、世代ごとの課題を把握し、必要な取り組みについて整理していきます。

#### 課題① 子どもの健康な体づくり

---

全国的には、低下傾向が続いていた子どもの体力・運動能力は近年ゆるやかに改善しつつあります。しかし、本市の小学生、中学生の体力テストの結果では、全国平均に比べ低い結果となっています。

ライフスタイルの変化やゲーム機などの普及により、子どもが外で遊ぶことが少なくなっており、運動をする子としない子の体力の格差も懸念されています。

子どもたちが外で遊びたいくなるような仕掛けづくりや、スポーツに親しむ環境づくりが求められています。また、小・中学校の体育の授業や部活動を通じて、スポーツへの関心を高め、体力・運動能力の向上に取り組むことが必要です。

#### 課題② 働く世代のスポーツ機会の拡充

---

市民アンケートでは、運動不足を感じる割合は、働く世代で高くなっており、30歳代では8割以上となっています。

スポーツをしない理由では、「仕事（家事、育児）が忙しくて時間がない」や「機会がなかった」の割合が高くなっています。

本市では、学校を卒業後に継続してスポーツに取り組める環境が十分整っておらず、仕事をしながらでもスポーツに取り組めるような環境の整備やスポーツをする機会の拡充が求められています。多くの人数が必要となる種目より、少人数で取り組めるスポーツへの人気が高まっており、ニーズを踏まえたスポーツ教室の開催などを行っていくことが必要です。

#### 課題③ 高齢者・障がい者のスポーツ推進

---

市民アンケートでは、「週1日以上の実施率」は、60歳代が最も高くなっていますが、70歳を超えると、加齢などを理由に、週1日以上の実施率は低下し、スポーツをしない人の割合が増加しています。

高齢者の中には、スポーツによる健康の維持・増進とともに、スポーツを通じたコミュニケーション、仲間との交流を楽しみにしている人も多く、年齢を重ねても楽しめるスポーツの普及が期待されています。

障がい者のスポーツについては、施設や指導者の面で体制が不十分であり、障がい者がスポーツに取り組める環境が整っていません。

障がいに応じたスポーツ活動が行えるよう、環境の整備を進めていくことが求められています。

## (2) スポーツ環境を整えるために

誰もが気軽にスポーツができる環境づくりに向けて、スポーツを支える人材の育成や施設の整備・充実、情報発信など、スポーツ環境の整備に向けた取り組みを整理します。

### 課題① スポーツ指導者の育成・充実

---

市民アンケートでは、「スポーツをする際に指導者がいる」と回答した人の割合は2割未満となっています。スポーツ団体へのヒアリング調査では、さまざまな団体で指導者が不足しているという意見が多くなっています。また、指導者からは、講習会などを受けて、指導者の資格を取得しても活用する機会がないという意見が挙げられました。

スポーツを行う目的によって、スポーツ指導者に望むことは多種多様であるため、目的に合わせた指導ができるよう、人材の育成を行い、指導者を活用する機会を増やしていくことが必要です。

### 課題② スポーツ施設・設備の整備

---

本市内のスポーツ施設は、グラウンドやテニスコートをはじめとして、老朽化が進んでいます。スポーツ団体へのヒアリング調査では、施設の改修を望む意見が多く挙げられました。市民アンケートでも、市の公共スポーツ施設の満足度は2割程度と低くなっています。

既存施設の維持・管理を行っていくとともに、計画的に施設の改修を進めていくことが求められています。

また、施設によっては予約が取りにくい状況であるため、今後は、利用ニーズに合わせた施設開放や、運用方法の改善などが求められています。

本市では、スポーツ施設の数が少ないことも課題となっており、スポーツ施設の新設についても検討していくことが必要です。

### 課題③ 情報提供・発信の充実

---

市民アンケートでは、スポーツに関する広報や情報提供について「もっと情報提供を行ってほしい」と回答した人の割合が5割以上となっており、スポーツ団体などからの十分な情報発信ができていない状況にあります。

情報提供・発信の方法を工夫し、スポーツに関する取り組みを多くの市民に周知していくことが必要です。

## 第3章 基本的な考え方

### 1. 基本理念

**誰もが いつでも いつまでも 気軽にスポーツに取り組める  
生涯スポーツ社会のまち とよあけ**

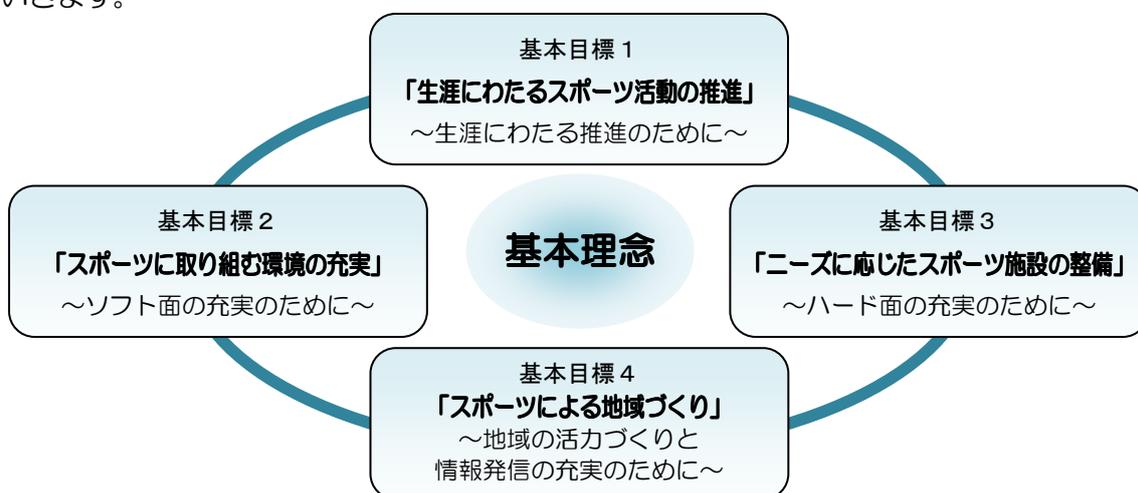
国の「スポーツ基本計画」では、「スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会の創出を目指していくことが必要である」としており、スポーツの果たす役割の重要性は高まっています。

本市では、年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、市民がいつでも、いつまでも、個々の状況に合わせて、運動やスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目指しています。そのため、子どもから高齢者まで、すべての市民が気軽にスポーツに関心を持ち、健康増進や生きがいにつなげ、スポーツを通じた市民の交流を活発にすることで活力あるまちを築いていきます。

### 2. 基本目標

基本理念に掲げたまちの実現には、「スポーツ習慣の形成と継続」が必要です。そのため、ライフスタイルに応じたスポーツ機会の提供を行い、より多くの市民が自ら進んでスポーツに参加できる環境を整えることが必要です。また、市民が安心して気軽にスポーツを楽しむための快適なスポーツ環境が必要です。そして、さらに多くの市民がスポーツに参加し、楽しみ、交流を図るために、地域づくりと情報発信の充実を図ることが必要です。

こうした考え方から、本計画では以下に掲げる4項目を基本目標とし、今後の取り組みを進めていきます。



### 3. 取り組み方針

計画の基本目標に基づき、取り組みの実施方針を以下に示します。

#### (1) 生涯にわたるスポーツ活動の推進

市民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じてスポーツに取り組めるようスポーツ活動を推進していきます。

子どもたちに対する多様なスポーツの実施機会の提供や、仕事や育児で忙しく運動機会の少ない若年層に向けた運動に関する情報提供やイベントの実施、高齢者や障がい者の自主性や生きがいづくりを目的としたスポーツの推進など、ライフスタイルやライフステージに合わせ、誰もが気軽にスポーツ活動に取り組むことのできる生涯スポーツ活動を推進していきます。

#### (2) スポーツに取り組む環境の充実

スポーツ活動の推進にあたり、個人のスポーツに対する関心を高めるとともに、スポーツに取り組む環境の充実を図ることも必要不可欠です。

各スポーツ団体間の連携を深め、不足しているスポーツ指導者の活躍の場を確保していくとともに、多種目、多世代、多志向でのスポーツ活動が行え、市民が主体となって運営する総合型地域スポーツクラブ<sup>\*</sup>を展開していくことで、市民の誰もがより身近にスポーツ活動を行えるよう環境の充実化を図ります。

#### (3) ニーズに応じたスポーツ施設の整備

スポーツ活動を実践していくためには、安全で利用しやすいスポーツ施設が身近に充実していることが大切です。

施設や設備の点検・整備を行うとともに、ニーズに応じて施設の新設・改修について検討し、市民がスポーツに親しみやすい環境を整えていきます。また、施設利用の意向があっても、利用できずにいた方々への対応として、市内に多数ある集会場などの有効活用や、スポーツ施設の運営方法の改善を図っていきます。

#### (4) スポーツによる地域づくり

多くの市民が、地域で仲間や幅広い世代と一緒にスポーツを楽しみ、交流を図ることで、人と人とのつながりや地域の活力につながります。

そのため、行政のみならず、区や町内会、NPO団体、スポーツ団体、学校、企業などが積極的にスポーツ活動に関わり、共助の精神で活動を行う「新しい公共<sup>\*</sup>」を推進し、生涯スポーツ社会の実現を目指します。

また、情報発信を充実し、多様な媒体からの情報発信やICT<sup>\*</sup>（Information and Communication Technology）の導入により、市民や地域、行政間での情報共有を図り、市民のスポーツへの主体的な取り組みを促進します。

## 4. 施策体系

### 基本理念

誰もが いつでも いつまでも 気軽にスポーツに取り組める  
生涯スポーツ社会のまち とよあけ

### 基本目標



### 取り組み方針

#### 生涯にわたるスポーツ活動の推進

- (1) 子どもの健康な体づくり
- (2) 働く世代のスポーツ機会の拡充
- (3) 高齢者・障がい者のスポーツ推進
- (4) 競技スポーツの振興
- (5) スポーツ・レクリエーション活動の推進

#### ニーズに応じたスポーツ施設の整備

- (1) スポーツ施設・設備の整備
- (2) スポーツ施設の有効活用

#### スポーツに取り組む環境の充実

- (1) 総合型地域スポーツクラブの展開
- (2) スポーツ指導者の充実
- (3) 安全性の確保

#### スポーツによる地域づくり

- (1) 市民のスポーツへの主体的な取り組み
- (2) スポーツを通じた交流の促進
- (3) 情報提供・発信の充実

### 重点プロジェクト

#### プロジェクト①

総合型地域  
スポーツクラブの展開

#### プロジェクト②

スポーツ施設の  
新設と改修の検討

#### プロジェクト③

身近な場所でスポーツ  
に取り組める環境整備

#### プロジェクト④

効果的な  
情報提供・発信

## 5. 重点プロジェクト

計画期間中に、特に力を入れて推進する取り組みを、「重点プロジェクト」として位置づけます。

### プロジェクト① 総合型地域スポーツクラブの展開

#### 【現状と課題】

本市スポーツクラブは、部活動で実施していない種目を中心に、子どもたちが多様なスポーツを行えるように実施しています。しかし、現在のクラブは参加者を小中学生に限定したものであり、幼児や成年、高齢者はクラブの対象者となっていません。市民アンケートの結果では、総合型地域スポーツクラブが必要だと思う人の割合は全体の約60%となりましたが、総合型地域スポーツクラブを知っている人の割合は全体の8%しかありませんでした。これからは、誰もが気軽に参加できる総合型地域スポーツクラブの展開と周知を図っていく必要があります。



#### 【重点プロジェクトの方向性】

基本理念にある、誰もが、いつでも、いつまでも、気軽にスポーツに取り組める生涯スポーツ社会の実現のために、地域住民が主体となって運営し、多世代、多種目、多志向の総合型地域スポーツクラブを展開します。

#### 【関連施策：第4章 施策の展開】

2. スポーツに取り組む環境の充実—(1) 総合型地域スポーツクラブの展開



## プロジェクト② スポーツ施設の新設と改修の検討

### 【現状と課題】

市内のスポーツ施設は、グラウンドやテニスコートをはじめとして、施設の老朽化が進んでいます。スポーツ団体へのヒアリング調査の結果からは、施設の改修を望む意見が多く挙げられました。また、市民アンケートの結果でも、市の公共スポーツ施設に対する満足度は2割程度と低くなっています。

市の財政状況から困難な部分もありますが、市民のニーズに応え、生涯スポーツ社会のまちを実現していくためには、スポーツ施設の新設や、大規模な改修を行っていく必要があります。



### 【重点プロジェクトの方向性】

既存施設の維持・管理を行っていくとともに、市民のニーズにより、スポーツ施設の新設や、大規模な改修について検討を進めていきます。

### 【関連施策：第4章 施策の展開】

#### 3. ニーズに応じたスポーツ施設の整備—(1) スポーツ施設・設備の整備



## プロジェクト③ 身近な場所でスポーツに取り組める環境整備

### 【現状と課題】

生涯スポーツ社会のまちを目指し、市民のスポーツ実施率の向上に取り組んでいきますが、働く世代では、忙しく時間がないことから、スポーツ実施率が低くなっています。また、高齢者（特に70歳以上の方）では体力の衰えを理由にスポーツをやめる人が多くなっています。

施設の面では、多くのスポーツ施設で利用率が高く、施設によっては予約が取れない状況となっています。

そのため、既存の施設を有効に活用し、新たなスポーツ活動の場を提供していくことが必要です。



### 【重点プロジェクトの方向性】

現在、市内地域に42か所ある集会場を活用し、身近な地域でスポーツに取り組める環境の整備を進めます。例えば、大きな設備などが必要なく、幅広い世代が親しみやすいスポーツとして、卓球などを地域でできるように、スポーツ用具に対する補助ができるよう検討をするなど、環境整備に努めます。



### 【関連施策：第4章 施策の展開】

#### 3. ニーズに応じたスポーツ施設の整備—(2) スポーツ施設の有効活用

## プロジェクト④ 効果的な情報提供・発信

### 【現状と課題】

スポーツに関する広報や情報提供をもっと行ってほしいと考えている市民は多く、市が行っている取り組みが十分に周知されていない状況となっています。

また、各スポーツ団体においてもホームページの整備がされていないなど、十分な情報発信が行われていません。

広報紙での情報発信では、時間や情報量に制約があり、情報の受け手にとって必要な情報の全てを得ることが難しく、情報を発信する側にとっても十分に情報を提供することができません。

あらゆるメディアを活用し、情報提供・情報発信の充実に取り組んでいく必要があります。



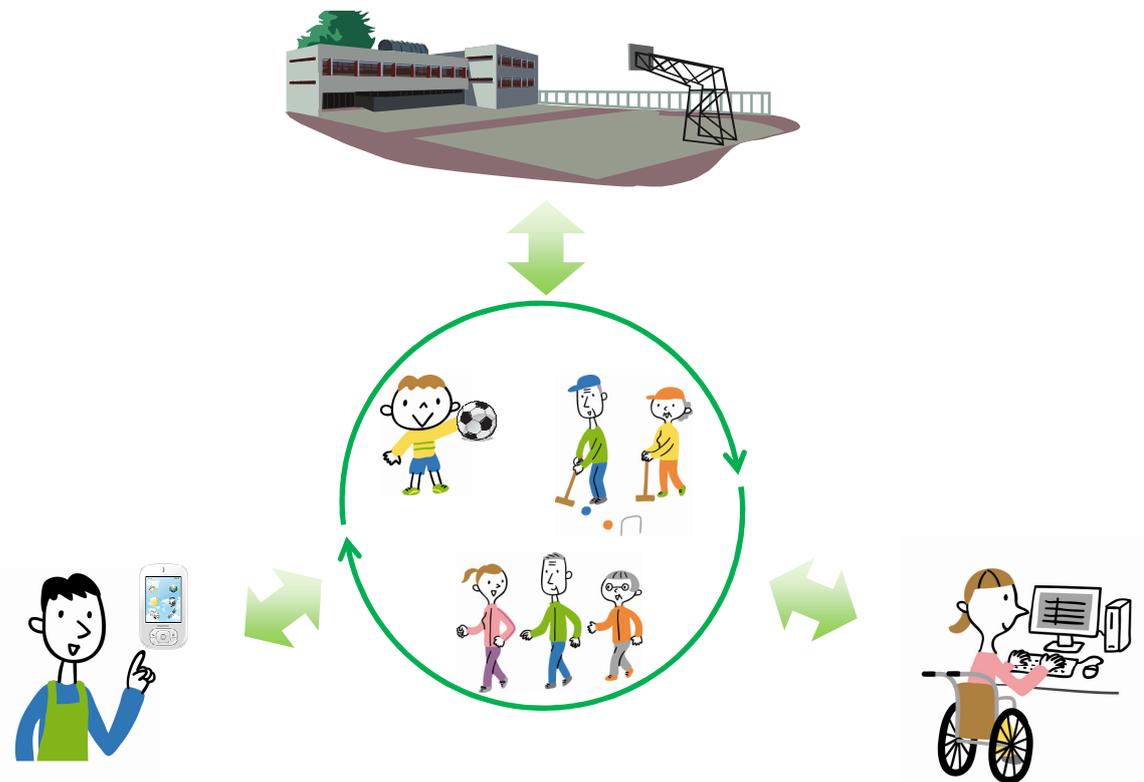
### 【重点プロジェクトの方向性】

本市では、「豊明市第2次情報化推進計画※」を策定し、行政情報の発信とともに、市民と行政・市民と市民が情報交流する「双方向の情報化」を促進し、活力ある地域社会を目指しています。

ICTを導入し、ホームページの拡充や Twitter や Facebook、LINE に代表されるソーシャルメディア※を活用し、効果的な情報提供・発信を行っていきます。

### 【関連施策：第4章 施策の展開】

#### 4. スポーツによる地域づくりー（3）情報提供・発信の充実



## 第4章 施策の展開

### 1. 生涯にわたるスポーツ活動の推進

#### (1) 子どもの健康な体づくり

スポーツは、多方面から子どもの健全な成長を促す効果を持っています。特に、子どもが幼い頃からスポーツ活動に親しむことは、健康な体をつくとともに、規範意識の定着やフェアプレイ精神を育むことにもつながります。さらに、スポーツを通じた仲間との交流はコミュニケーション能力の育成にも寄与します。

子どもたちの心身の健やかな成長のため、家庭、地域、学校など、さまざまな場面で子どもたちが楽しんでスポーツに親しめる環境づくりに取り組みます。

#### ◇数値目標◇

指標項目	単位	現状値	中間目標値	最終目標値
体力テストの結果	—	多くの種目で全国平均値を下回っている	全国平均と同じ	全国平均を上回る種目を増やす

#### ①子どもの体力・運動能力の向上

子どもの体力や運動能力の向上には、子ども自身が体を動かすことの楽しさを発見することが大切です。スポーツの楽しさを広めていくために、家庭や学校、地域、団体と連携して、スポーツに親しむことができる機会や環境づくりを行っていきます。

#### 具体的な取り組み

##### ア、親子スポーツ大会

福祉体育館のアリーナを利用し、子どもたちが運動遊びの楽しさを知る機会づくりとしての一環として、親子スポーツ大会を実施します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：児童福祉課 連携：生涯学習課、体育協会、スポーツ推進委員会、レクリエーション協会

##### イ、スポーツをしよう！

各児童館でさまざまなスポーツやレクリエーションを行います。月ごとの活動目標の設定や検定を行い、参加者が継続して実施できるようにします。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：児童福祉課

## ウ、スポーツ教室

年間で前期・後期に分けて、小中学生を対象としたスポーツ教室を開催します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：体育協会、スポーツ推進委員会、レクリエーション協会

## エ、豊明市スポーツクラブ

豊明市スポーツクラブが部活動で実施していない種目を開催し、子どもたちが多様なスポーツを行える環境を提供します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	総合型地域SCへ移行	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：体育協会、スポーツ推進委員会、レクリエーション協会

## オ、自然環境を生かした運動体験

親子で一緒に、自然環境の中でのびのびと遊び、五感を養うことができる機会を提供します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討	実施	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課、児童福祉課 連携：スポーツ推進委員会

## カ、コーディネーショントレーニング※教室の実施

身体と脳、神経系統のバランスの良い発育を促し、運動の習得効果を高めるトレーニング法を取り入れ、専門的な技術を習得するための基礎づくりを行います。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討	実施	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課

## ②学校体育・部活動への支援

幼少期は、学校での運動機会が多く、生涯にわたるスポーツ活動を行っていく上で基礎となります。スポーツを好きになるような魅力ある授業づくりの推進や、運動能力・体力向上に向けた部活動の取り組みを支援していきます。

### 具体的な取り組み

#### ア、小学校陸上競技大会

全小学校が参加する陸上競技大会を実施します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：学校教育課

#### イ、部活動への指導者紹介

部活動への指導の補助として、スポーツ人材バンク（仮称）に登録されている指導者の部活動への紹介を行います。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討	実施	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：学校教育課

## (2) 働く世代のスポーツ機会の拡充

働く世代は、仕事や家事などの忙しさから、スポーツに取り組む機会が少なくなりがちです。しかし、この世代のスポーツは、体の健康づくりの面からも、またストレス解消といった心の健康づくりの面からも重要な役割を持っています。働く世代が積極的にスポーツに親しめるようにすることは、将来的な医療費の削減につながるばかりでなく、スポーツ指導者の育成、総合型地域スポーツクラブの発展など、地域の絆づくりにも寄与します。

働く世代がスポーツに関心を持ち、それぞれの体力や個々の状況などに応じてスポーツに取り組める環境づくりを進めます。

### ◇数値目標◇

指標項目	単位	現状値	中間目標値	最終目標値
成人の週に1日以上スポーツ実施率	%	35.5	50.0	60.0

### ①若年層へのスポーツ推進

20歳代～40歳代では、将来に向けた自身の健康づくりやその子どもがスポーツに親しむためにも、スポーツを行う機会を増やしていくことが必要です。

年齢や世代に合わせたスポーツ機会やスポーツ情報を提供し、若い世代へのスポーツの推進を図っていきます。

### 具体的な取り組み

#### ア、子育て期にある女性のスポーツ参加

児童館と連携し、子育て期にある女性に対して、スポーツ教室やイベントを行います。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討	実施	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：児童福祉課

#### イ、親子スポーツ大会(再掲)

福祉体育館のアリーナを利用し、子どもたちが運動遊びの楽しさを知る機会づくりとしての一環として、親子スポーツ大会を実施します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：児童福祉課 連携：生涯学習課、体育協会、スポーツ推進委員会、レクリエーション協会

#### ウ、特定の年齢を対象にしたイベントの実施

レディースデーや若者デーなど、特定の年齢層を対象にしたイベントを実施し、スポーツへの参加を促進します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討	実施	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：関係各課、体育協会、スポーツ推進委員会、レクリエーション協会

## エ、働く人への啓発活動

広報や各種媒体を使い、定期的に運動を促進する啓発活動を行います。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討・実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：秘書広報課

## オ、各種媒体を使った在宅スポーツプログラムの実施

ICTを活用し、普段、仕事や子育てで忙しく、時間が取れない人でも、家や職場でスポーツができるような運動プログラムを作成します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討	→	実施	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：企画政策課、大学、体育協会

## ②中高年齢層へのスポーツ推進

中高年期に差しかかると、体力や運動能力の低下、身体の変化を感じるようになり、健康づくりへの関心を持つ人が多くなります。今後とも元気で豊かな生活を送るために、健康づくりと合わせて、自分に合った運動習慣を身につけられるように取り組みを行っていきます。

### 具体的な取り組み

#### ア、スポーツによる生活習慣病予防事業

関係機関と連携を図り、健康な体づくりを目指したスポーツ教室やウォーキングなどのイベントを実施し、生活習慣病の予防を図ります。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：健康推進課、生涯学習課

#### イ、特定保健指導対象者への情報提供

特定保健指導対象者等へスポーツ教室やスポーツイベントの情報提供を行います。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討	実施	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：健康推進課、生涯学習課 連携：企画政策課

#### ウ、健康づくりへのアドバイス

保健師や栄養士等と連携し、スポーツを通じた市民の健康づくり活動に対し、周知・啓発を行います。併せてICTを活用し、家でもスポーツができる運動プログラムを作成し、健康増進を図ります。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：健康推進課 連携：生涯学習課

## エ、体力測定の実施

市民を対象に体力測定を実施し、結果診断を行うことで自身の体力を把握してもらい、スポーツ教室やイベントの紹介を行います。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討	実施	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課

## オ、スポーツ教室(再掲)

年間で前期・後期に分けて、中高年を対象としたスポーツ教室を開催します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：体育協会、スポーツ推進委員会、レクリエーション協会

### ■体力測定の様子



### ■小中学生スポーツ教室（剣道）の様子



### ■小中学生スポーツ教室（柔道）の様子



### (3) 高齢者・障がい者のスポーツ推進

スポーツは、性別や年齢、障がいの有無などに関係なく、誰もが取り組み、楽しむことができるものです。高齢者や障がい者のスポーツは、介護予防やリハビリ、生きがいづくりなどの側面を持ち、その効果は計り知れません。さらに近年では特に障がい者にとってのスポーツの重要性が高まっており、スポーツ基本法の基本理念には「障害者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、障害の種類及び程度に応じ必要な配慮をしつつ推進されなければならない」とうたわれています。

年齢や障がいの有無に関わらず、全ての人がスポーツに親しむことができる環境づくりに取り組むことで、生涯スポーツ社会の実現を目指します。

#### ◇数値目標◇

指標項目	単位	現状値	中間目標値	最終目標値
成人の週に1日以上スポーツ実施率	%	35.5	50.0	60.0

#### ①高齢者のスポーツ参加への支援

スポーツは、健康づくりや体力の維持・向上とともに、スポーツを通じたコミュニケーションによる生きがいづくりにもつながります。ライフステージに合ったスポーツの紹介やスポーツ機会を提供し、高齢者のスポーツ参加を支援していきます。

#### 具体的な取り組み

##### ア、高齢者スポーツの推進

高齢者を対象にターゲット・バードゴルフ、グラウンドゴルフ※、地域でのラジオ体操等を行います。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：体育協会、レクリエーション協会

##### イ、ウォーキングマップのコースを歩こう

関係機関と連携しウォーキング経験のない人、体力に自信のない人にも参加してもらいやすいようなコース設定を行い、周知・啓発を進め、市民のウォーキング機会の拡大を図ります。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：健康推進課、生涯学習課 連携：スポーツ推進委員会

##### ウ、生きがい推進事業

老人クラブに加入している運動クラブを含めた、趣味クラブの運営を助成します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：高齢者福祉課

## エ、介護予防事業の推進

豊明市高齢者福祉計画・介護保険事業計画実施事業に、ニュースポーツ<sup>\*</sup>やコーディネーショントレーニングを取り入れ、高齢者の体力づくりや生きがいづくりを推進します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討	→	実施	→	評価・検証・見直し	→

担当：高齢者福祉課 連携：生涯学習課

## ②障がい者のスポーツ参加への支援

スポーツによる健康や運動機能の向上、達成感や向上心など精神的な効果、社会参加の機会づくりや促進など、障がい者のスポーツ参加の重要性は高まっています。

障がい者がスポーツに取り組む機会の提供や環境づくりを進め、スポーツへの参加を支援していきます。

### 具体的な取り組み

#### ア、障がい者にも参加しやすいスポーツ教室の開催

障がい者の自主性、生きがい、働く力を養うことを目標とし、健常者ととともに気軽に参加できるスポーツ教室を開催します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討	実施	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：社会福祉課、関係機関

#### イ、市民一体のスポーツイベントの開催

ウォークラリーなど、健常者と障がい者が一緒になって行うスポーツイベントを開催します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：社会福祉課 連携：レクリエーション協会、関係団体

#### ウ、障がい者スポーツへの理解促進

障がい者スポーツへの理解を深めるため、職員・スポーツ推進委員<sup>\*</sup>など、障がい者スポーツに携わる人々を対象に周知・啓発を行います。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討	実施	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：社会福祉課 連携：関係機関

#### エ、県障がい者スポーツ大会への参加支援

愛知県が実施している障がい者スポーツ大会への参加者の取りまとめや大会当日の随行を行い、障がい者のスポーツ参加機会の増進を図ります。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：社会福祉課 連携：関係機関

## (4) 競技スポーツの振興

競技スポーツは、「する」人だけでなく「みる」人に対しても、感動を与える魅力を持っています。高い技術のスポーツを観戦することは、競技人口の拡大や、市民のスポーツ活動の活性化にも大きく貢献します。

国内外で活躍できる選手の育成に向け、運動能力の向上が著しい9歳～12歳ごろのジュニア世代をはじめ、競技者の意欲を高め、競技力を向上するための取り組みを進めます。

### ①競技力の向上

競技力の向上に向けては、スポーツ団体や各協会、行政の支援は大きな力となります。

スポーツの指導や競技の場を充実していくために、スポーツ団体や各協会の連携強化や行政としてのさまざまな支援を行ない、競技スポーツの競技者の増加や競技力の向上に取り組んでいきます。

#### 具体的な取り組み

##### ア、市体育協会・レクリエーション協会の組織体制の充実・支援

市民の生涯スポーツの促進のため、専門性に優れた機能を有する体育協会やレクリエーション協会との連携を強化し、ソフト事業の充実を図ります。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：体育協会、レクリエーション協会

##### イ、選手派遣費補助

県または市を代表してスポーツ選手を派遣する際、旅費の全額、または一部を助成します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課

##### ウ、トップアスリートによるスポーツクリニックの実施

トップアスリートを教室等のイベントに招致し、指導、助言を受けることにより、競技力の向上と競技人口の増加につなげます。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討	実施	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：体育協会

## ②スポーツ表彰の実施

各種スポーツ大会において優秀な成績を収めた人や本市のスポーツの発展に貢献した人や団体に対しスポーツ表彰を行い、スポーツの更なる発展を目指していきます。

### ◇数値目標◇

指標項目	単位	現状値(23年度)	中間目標値	最終目標値
スポーツ表彰件数	件	87	95	100

### 具体的な取り組み

#### ア、豊明市スポーツ表彰

世界大会などへの参加、全国大会3位以上、東海大会1位など、功績のあった人や団体を表彰します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課

#### イ、豊明市体育協会表彰

体育協会関係等において、功績のあった人や団体を表彰します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：体育協会

#### ウ、豊明市レクリエーション協会表彰

レクリエーション協会関係等において、功績のあった人や団体を表彰します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：レクリエーション協会

### ■スポーツ表彰式の様子



## (5) スポーツ・レクリエーション活動の推進

スポーツはまず何よりも「楽しむ」ことが重要です。楽しめるスポーツ・レクリエーションのメニューが多様であることが、幅広い市民の参加や継続した取り組みにつながります。

市民の誰もが、生涯にわたってスポーツ活動を行っていただけるよう、年齢や体力など、それぞれに合わせたスポーツやレクリエーションに取り組める環境づくりを進めます。

### ◇数値目標◇

指標項目	単位	現状値	中間目標値	最終目標値
ニュースポーツイベントの参加者数	件	408	700	1,000

### ①ライフステージに応じたスポーツ・レクリエーションの実施

生涯にわたってスポーツに親しむためには、ライフステージに応じたスポーツを行っていくことが必要です。誰もが親しみやすく実施しやすい、レクリエーション種目・ニュースポーツの紹介や実施する機会を提供し、生涯スポーツを推進していきます。

#### 具体的な取り組み

##### ア、あそびの日の実施

さまざまなスポーツやレクリエーションを通じて、人と人とのつながりや笑顔を広める「あそびの日」を開催します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：体育協会、レクリエーション協会

##### イ、豊明市レクリエーション協会教室

レクリエーション協会加盟種目のターゲット・バードゴルフ、グラウンドゴルフ、インディアカ※、ショートテニス※の4種目について、初心者を対象に教室を開催します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：レクリエーション協会

##### ウ、スポーツレクリエーションフェスティバルの実施

普段、運動不足の人や運動が苦手な人をターゲットに、スポーツ推進委員が中心になってニュースポーツの紹介や体験会を行い、普段から運動をする人の増加を図ります。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：スポーツ推進委員会、生涯学習課

## 2. スポーツに取り組む環境の充実

### (1) 総合型地域スポーツクラブの展開

# みんなでたのしむ！ みんなでささえる！ 総合型地域スポーツクラブ

体を動かして遊ぶ機会が少なくなっている現在の環境は、子どもの体力低下や肥満増加につながっています。成人は仕事や家事・育児に追われ、なかなかスポーツをする機会がありません。

こうした環境で、生涯にわたり身近な地域でスポーツを楽しむことのできる環境がある場所、それが総合型地域スポーツクラブです。地域住民が主体となって運営し、多様な種目やレベルの地域スポーツ活動を推進する組織です。

総合型地域スポーツクラブは、今までにないまったく新しいタイプのスポーツクラブです。身近な地域で、「誰でも」「いつでも」「いつまでも」生涯を通じてスポーツに楽しむことのできる場を提供しています。総合型地域スポーツクラブでは、仲間内で楽しむ数十人のチームやサークルではなく、スポーツの得意・不得意、性別や世代などを問わず、地域の誰もが気軽に参加し楽しむことができます。総合型地域スポーツクラブである「豊明市総合型地域スポーツクラブ（仮称）」を設立し、市民が主体的に運営を行い、地域に根差したスポーツ活動の拠点となるよう運営を支援していきます。平成7年度に国が提唱し、私たちが日常的にスポーツを行う場として普及し、今では全国に2,800以上のクラブが創設されています。

#### ◇数値目標◇

指標項目	単位	現状値	中間目標値	最終目標値
総合型地域スポーツクラブの認知度	%	8.0	30.0	50.0
総合型地域スポーツクラブの設置数	団体	0	1	NPO 法人格取得

#### 具体的な取り組み

##### ア、豊明市総合型地域スポーツクラブ（仮称）の設立（重点プロジェクト）

総合型地域スポーツクラブである「豊明市総合型地域スポーツクラブ（仮称）」を設立し、市民が主体となってスポーツクラブの運営を行い、地域に根差したスポーツ活動の拠点となるよう運営を支援していきます。市民の市民によるスポーツクラブとして誰もが、いつでも、いつまでも、気軽に参加できるスポーツクラブを目指します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
情報収集・検討準備委員会設置	設立	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：学校教育課、大学、体育協会、レクリエーション協会、スポーツ推進委員会

## (2) スポーツ指導者の充実

市民が主体的に参画する地域スポーツ環境を整備していくためには、スポーツ活動の目的に合わせたスポーツ指導者の充実が必要です。しかし、本市においては指導者が不足しており、今後より一層、指導者の育成を図っていかねばなりません。また、スポーツ基本法の制定により、スポーツ推進委員（旧：体育指導委員）は、これまで主な役割として位置づけられてきたスポーツ実技の指導や助言に加えて、「新しい公共」を担う総合型地域スポーツクラブの育成など、地域スポーツの推進役として、コーディネーターという役割が重要視されるようになりました。

全市的なスポーツの推進に向け、地域活動を支えるスポーツ指導者の育成と、スポーツ推進委員の組織強化を行っていきます。

### ◇数値目標◇

指標項目	単位	現状値	中間目標値	最終目標値
スポーツ推進委員の認知度	%	10.2	20.0	30.0
スポーツ人材バンク（仮称）の登録者数	人	74	150	200

### ①スポーツ指導者の人材育成

スポーツを行う人のレベルや目的に合わせた適切な指導がされることは、スポーツを実施する人にとって大きな励みになります。スポーツ指導者に対するさまざまな研修会や講習会を開催し、スポーツ指導者の人材育成を図っていくとともに、地域スポーツを推進していくために、スポーツ推進委員の組織強化と社会的地位の確立を目指していきます。

#### 具体的な取り組み

##### ア、指導者向け講習会の実施

指導力の強化と指導を受ける側からの考えも理解できるよう、外部講師による講習会を行い、指導者のスキルアップを図ります。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討・実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課

##### イ、スポーツ推進委員の組織強化と社会的地位の確立

資質の高いスポーツ推進委員をより効果的に組織化するとともに、地域スポーツを推進していくコーディネーターとしての重要性を認識し、関係団体や学校、総合型地域スポーツクラブなどとの多様なつながりの創出を目指していきます。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：スポーツ推進委員会

## ②スポーツ指導者の有効な活用

スポーツ指導者が持っている技術や知識を有効に活用していくために、必要としている市民や学校、団体等に対し、情報を分かりやすく提供し、スポーツ指導者の活躍の場を創出していきます。

### 具体的な取り組み

#### ア、スポーツ人材バンク(仮称)の設立

現在のスポーツ指導員登録制度を発展させ、競技ごとの指導者情報やスポーツイベントなどを支えるスポーツボランティアの情報を盛り込んだスポーツ人材バンク(仮称)を設立します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討	設立	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課

#### イ、部活動への指導者紹介(再掲)

部活動への指導の補助として、スポーツ人材バンク(仮称)に登録されている指導者の部活動への紹介を行います。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討	実施	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課

#### ウ、スポーツ推進委員の派遣

各区や団体などからの派遣依頼により、スポーツ推進委員を派遣し、ニュースポーツやウォーキングの指導・助言を行います。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：スポーツ推進委員会

#### ■スポーツ推進委員のみなさん



### (3) 安全性の確保

スポーツ活動のなかで生じるけがなどの危険性を回避するためにも、競技者や指導者、運営スタッフなどが正しい知識を身につけておくことや、安全なスポーツ環境づくりが求められます。

スポーツにおける事故などを防ぎ、誰もが安心してスポーツに取り組めるよう、スポーツ実施時の安全性を確保します。

#### ①AED\*の設置等安全体制の整備

スポーツ施設に対し、AEDの設置・点検・保守管理を促すとともに、施設利用者への周知を行っていきます。また、スポーツ実施者や指導者に対して講習会などを開催し、市民が安心してスポーツに取り組めるよう安全体制を整備してきます。

#### ◇数値目標◇

指標項目	単位	現状値	中間目標値	最終目標値
AEDの設置	—	福祉体育館・勅使会館・各小中学校職員室	順次	貸出用10個 各学校体育館

#### 具体的な取り組み

##### ア、AEDの設置・貸出

各小中学校体育館へAEDを設置することで、体育授業の際や学校開放利用者に対し、迅速な対応ができるようにします。また、管理体制によりAED設置が困難な施設の利用者に対しては、携帯用AEDの貸出を行います。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討	順次設置	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課、学校教育課

##### イ、スポーツ指導員救命講習会

スポーツ指導員、スポーツ人材バンク（仮称）登録者に対して、定期的に救命講習会を開催し、AEDの取り扱いなどについて講習を行います。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課

#### ■AED講習の様子



### 3. ニーズに応じたスポーツ施設の整備

#### (1) スポーツ施設・設備の整備

スポーツの習慣化を図るためには、誰もが気軽にスポーツに親しむことができる施設や設備が欠かせません。

施設の整備や改修を進め、利用者が安全で快適にスポーツに取り組める環境を整えます。

また、スポーツ施設の新設についても検討を進めていきます。

#### ◇数値目標◇

指標項目	単位	現状値	中間目標値	最終目標値
市公共スポーツ施設の満足度	%	20.5	50.0	80.0

#### ①高齢者や障がい者に配慮した施設整備

高齢者や障がい者にとっても利用しやすい施設とするため、スポーツ施設のバリアフリー※化を進めていきます。また、障がい者が日常的にスポーツに親しめるよう、利用料金の優遇措置についても検討していきます。

#### 具体的な取り組み

##### ア、施設のバリアフリー化の推進と障がい者の利用料金減免制度

高齢者や障がい者が施設を利用しやすいように、障がい者用トイレやスロープなどの設置を検討します。また、障がい者を対象としたスポーツ施設の利用料金減免制度などについても検討を進めていきます。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討・情報収集	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課

#### ②施設や設備の点検・整備

利用者の安全性や利便性を考慮し、施設や設備の点検・整備を行い、必要に応じて計画的に改修などを行っていきます。

#### 具体的な取り組み

##### ア、スポーツ施設の点検・整備

施設の点検・整備を計画的に行っていきます。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課

## イ、ふれあい広場の設置補助

地域のふれあい広場の維持・管理を助成します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課

## ウ、スポーツ施設の新設と改修の検討(重点プロジェクト)

市民（利用者）の要望を取り入れながら、スポーツ施設の新設、改修、修繕やリニューアル、用途変更、多目的化などを検討し、有効利用できる効果的なスポーツ施設の整備を行っていきます。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討・情報収集	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課



## (2) スポーツ施設の有効活用

学校体育施設や、公共スポーツ施設は、本市の各地域に配置されており、市民にとって身近なスポーツ活動の場になっています。今後は、総合型地域スポーツクラブの拡充により、これらの施設が「新しい公共」を担う、地域コミュニティの拠点となっていくことが期待されます。

スポーツ活動が十分行えるよう、既存のスポーツ施設の有効活用方法について検討し、スポーツの活動場所の確保に努めるとともに、地域コミュニティの核として学校体育施設や公共スポーツ施設などの機能充実・強化を図り、地域住民のスポーツを通じた交流を促進します。

### ◇数値目標◇

指標項目	単位	現状値	中間目標値	最終目標値
市内体育施設の利用者数	人	319,805	330,000	350,000
学校体育施設スポーツ開放利用団体数（年間）	団体	4,152	4,500	5,000

### ①既存施設の有効活用

多くの市民がスポーツを行うためには、十分なスポーツ施設が必要です。市内の各所にある集会場や学校体育施設など、既存施設を有効に活用し、市民にスポーツの場を提供していきます。

#### 具体的な取り組み

##### ア、コミュニティ施設の開放と支援(重点プロジェクト)

集会場などでスポーツが行えるように、スポーツ用具に対する補助金制度を検討し、施設のスポーツ開放に協力し、現存スポーツ施設の空き不足解消と施設の有効活用を図ります。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討・情報収集	順次実施	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：市民協働課

##### イ、学校体育施設スポーツ開放の充実

スポーツニーズの多様化に伴う利用需要に対応するため、開放日や開放時間の拡大など学校運営に支障のない範囲での一層の施設開放を検討します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討・情報収集	順次実施	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：学校教育課

## ウ、プール開放事業の充実

市民アンケートの結果からプールの開放についての要望が多く挙げられました。学校や民間企業と連携し、プールの開放について検討していきます。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：学校教育課 連携：生涯学習課

## ②指定管理者制度導入の検討

スポーツ施設の運営管理に関して、民間ノウハウの活用によるサービスの向上及び経費の削減を図るため、指定管理者制度を導入することが決定されました。現在26年度の実施に向けて、具体的な検討・調整を行っています。この指定管理者制度の導入により、市民がスポーツ施設をより有効活用できるよう検討を進めます。

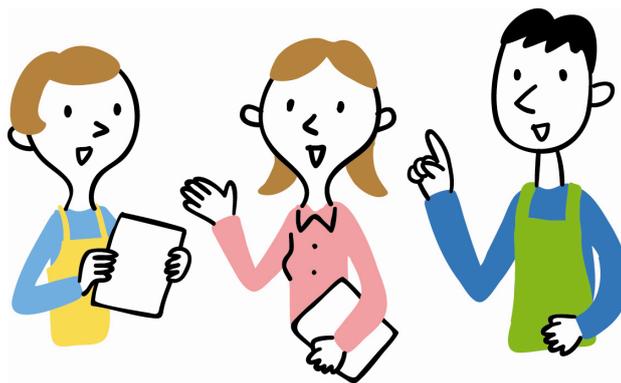
### 具体的な取り組み

#### ア、指定管理者制度\*導入の検討

市民サービスの向上に向けて、スポーツ施設等への指定管理者制度導入を検討し、管理運営体制の改善を図っていきます。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討・公募	実施	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：企画政策課、各種団体



## 4. スポーツによる地域づくり

### (1) 市民のスポーツへの主体的な取り組み

本市では、体育協会、レクリエーション協会に所属する各団体や、コーディネーターであるスポーツ推進委員などをはじめとして、スポーツに関する各種の団体が活発に活動しています。また、小中学生を対象とした豊明市スポーツクラブなどの活動もあり、さまざまな組織、団体がスポーツ活動に積極的に取り組んでいます。しかし、スポーツをまったくしない市民も多く、活動のすそ野をさらに広げていくための取り組みが求められます。

市民や地域、団体等の自主性に基づいた活動を促進するとともに、組織・団体間の連携を強化することで、「する」「みる」「ささえる」スポーツ振興の効果を高めていきます。

#### ①スポーツへの関心の向上

本市のスポーツを推進していくためには、市民がスポーツを「する」だけでなく、「みる」「ささえる」ことにも主体的に取り組む必要があります。スポーツイベントの観戦や支援するボランティアとしての参加など、さまざまな面からスポーツ参加を促進し、市民の関心が高まるよう取り組みを進めていきます。

#### 具体的な取り組み

##### ア、スポーツ推進委員会報によるスポーツイベント紹介

スポーツ推進委員が中心となって会報を作成し、ニュースポーツや各種スポーツイベントの紹介を行います。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課

##### イ、備品の貸し出し

地域のスポーツ行事への備品の貸し出しを行います。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課

#### ■スポーツイベントの様子



## ②地域団体の連携強化（スポーツ団体、健康づくりに関する団体、学校など）

スポーツに対して、市民が主体的に取り組みを行っていくためには、活動や活動の支援を行っている各団体の連携が必要です。日頃の活動や会合を通じて、団体内の交流を深めるとともに、各団体間においてもスポーツイベントや意見交換などの場を設けるなど、各団体の連携強化を促進していきます。

### 具体的な取り組み

#### ア、地域スポーツと大学や企業との連携

大学や企業と連携し、地域スポーツや総合型地域スポーツクラブなどへの指導者の派遣・育成やスポーツ大会、イベントの実施などを行います。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討	実施	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：大学、企業

#### イ、ウォーキング推進グループ会合の開催

ウォーキング事業に取り組むグループ同士の会合を開催し、ウォーキング初心者や高齢者にも取り組んでもらえる仕組みづくりを検討します。また、年齢性別を問わず、気軽に楽しめるノルディックウォーキング※などのフィットネスウォーキング※の導入についても検討していきます。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討	実施	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：健康推進課、生涯学習課、高齢者福祉課 連携：スポーツ推進委員会

#### ■ウォーキングの様子



## (2) スポーツを通じた交流の促進

スポーツは、世代や性別、国籍、住んでいる地域などの違いを超えた、人と人とのつながりや交流を生み出します。また、地域においては、コミュニティの活性化や、明るいまちづくり、青少年の健全育成などにも寄与します。

スポーツを通じて人や地域の交流が図られる機会をつくり、活力あるまちづくりを進めます。

### ①スポーツイベントの開催

スポーツイベントは、市民や地域の交流が生まれ、市の活性化へとつながります。さまざまなスポーツイベントを開催し、世代や年齢、地域などを超えた交流を促進していきます。

#### ◇数値目標◇

指標項目	単位	現状値	中間目標値	最終目標値
スポーツイベントの参加者数（ア～カ）	人	7,943	8,500	9,000
チャレンジデーの参加率（参加者数／人口）	%	—	30%	50%

#### 具体的な取り組み

##### ア、市民体育大会の実施

各体育協会へ登録をしていない人も含め、誰でも気軽に参加できる市民体育大会を開催します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：各種団体

##### イ、市民歩け歩け運動

毎月第1日曜日に自宅から歩いて二村山山頂を目指し、参加することでスタンプを貯めていく市民歩け歩け運動を開催します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：スポーツ推進委員会

##### ウ、ラジオ体操会の実施

市制記念日に合わせて、8月に全市民対象にラジオ体操会を開催します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：各種団体

## エ、姉妹都市とのスポーツ交流会の開催

少年スポーツ及び生涯スポーツの交流会を実施し、姉妹都市との交流を深めるとともにスポーツの振興を図ります。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：市民協働課、生涯学習課 連携：各種団体

## オ、外国人とのスポーツ交流会の実施

関係団体と連携して市在住の外国人とスポーツを通じて交流を行うイベントを開催します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：市民協働課、生涯学習課 連携：各種団体

## カ、区と区とのスポーツ交流の開催

市内各地域で盛んなグラウンドゴルフ大会などを開催し、行政区同士でスポーツの交流を図ります。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討	実施	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：市民協働課、生涯学習課 連携：レクリエーション協会、スポーツ推進委員会

## キ、チャレンジデーの実施

毎年5月の最終水曜日に人口規模がほぼ同じ自治体で午前0時から午後9時までの間に、15分以上継続して運動を行った住民の「参加率%」を競い合い、敗れた場合には、対戦相手の自治体の旗を庁舎のメインホールに1週間にわたり掲揚するというユニークな住民総参加型のイベントを開催します。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討	実施	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課 連携：各種団体

### ■ラジオ体操会の様子



### ■上松町とのスポーツ交流会の様子



### (3) 情報提供・発信の充実

「する」「みる」「ささえる」など、スポーツへの関わり方が多様化する中で、求められる情報も多岐にわたっています。また、情報の受け手である市民も、さまざまな媒体を使って情報を取捨選択する時代になりました。そのため、本市のスポーツに関する情報も、市民のニーズに即し、発信形態も含めて創意工夫することが必要となっています。

多くの市民がスポーツに関する情報に身近にふれることができるよう、効果的な広報や情報提供を行います。

#### ◇数値目標◇

指標項目	単位	現状値	中間目標値	最終目標値
スポーツに関する情報提供をもっと行ってほしいと感じる市民の割合	%	52.7	30.0	0.0

#### ①広報・情報発信の強化

市民にスポーツに親しんでもらうために、各スポーツ団体や市がさまざまな取り組みを行うとともに、それらの取り組みを市民に伝えていくことが必要です。広報紙や各種パンフレット、ICTを活用し、各世代に合わせた、効果的な情報提供を行っていきます。

#### 具体的な取り組み

##### ア、ICTの導入とソーシャルメディアの活用(重点プロジェクト)

豊明市情報化推進計画に基づき、ICTの導入を行い、Twitter や Facebook、LINE などのソーシャルメディアを活用し、効果的な情報発信を行います。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討	→	実施	→	評価・検証・見直し	→

担当：企画政策課、生涯学習課

##### イ、ホームページの拡充

市民の視点に立って情報を分かりやすく整理し、利用しやすくなるようホームページの刷新を図ります。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討・実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：秘書広報課、生涯学習課

##### ウ、スポーツコーナーの掲載

広報紙にスポーツに関する情報をまとめた、スポーツコーナーを掲載していきます。合わせて、事業の案内だけでなく啓発活動についても掲載していきます。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討・実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：秘書広報課、生涯学習課

## エ、福祉体育館だよりの配布

図書館や文化会館で配布している毎月の事業案内のチラシと同様に、スポーツイベントの開催や結果、各クラブの活動報告などを掲載し、市民への情報提供を行います。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討・実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：生涯学習課

## オ、スポーツ施設についての手引の発行

スポーツ施設の利用に関する情報を載せたリーフレットを発行し、市内のスポーツ施設の周知と利用者増加を図ります。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
検討	実施	→	→	評価・検証・見直し	→

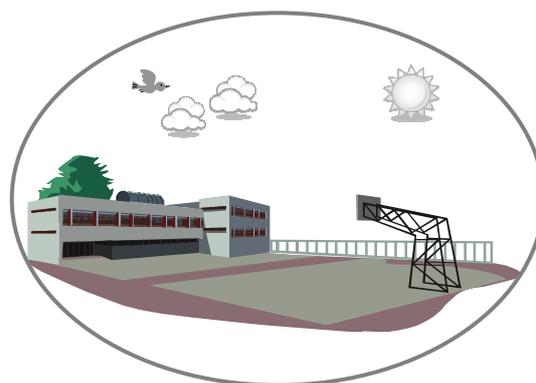
担当：生涯学習課

## カ、施設の利用予約システムの整備

市民の施設利用の利便性向上を図るため、窓口や電話、インターネットなどによる空き状況の把握や予約ができるシステムを整備していきます。

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
継続実施	→	→	→	評価・検証・見直し	→

担当：企画政策課、生涯学習課



# 第5章 計画の推進に向けて

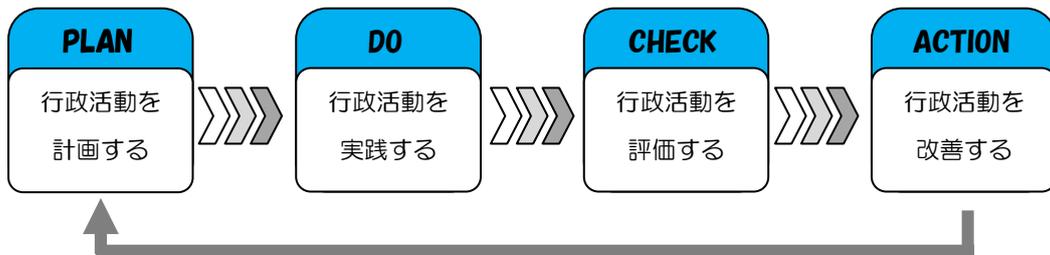
## 1. 計画の進捗管理

### (1) 庁内における推進体制の整備

計画は、事務局である生涯学習課を中心に進捗管理を行います。本計画で掲げた市民のスポーツ推進に関する各施策については、PDCAサイクル※（計画管理のためのサイクル）を実行し、毎年、担当課において点検や評価を行うことで計画の進捗状況を把握し、実効性を確保します。

さらに、外部評価委員を含めた「スポーツ推進計画審議会」を設置し、本計画で示したスポーツ推進に関する施策や事業の進捗確認を行います。

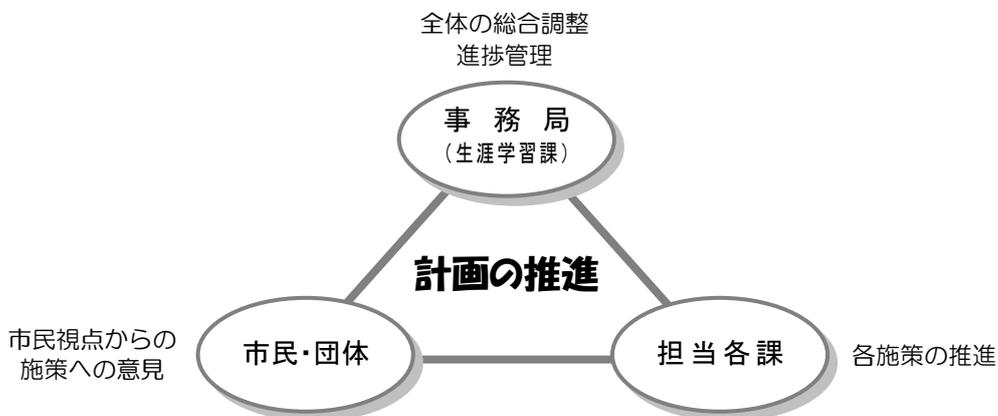
#### ■PDCAサイクル



### (2) 市民視点からの推進体制の整備

計画の進捗状況や数値目標の達成状況を、広報紙やホームページを活用して随時公表することで、市民や関係団体などの意見の施策への反映に努めます。

また、体育協会、レクリエーション協会、スポーツ推進委員会などの、本市のスポーツ推進に重要な役割を持つ各種団体の意見については、定期的に意見交換を行うことで施策や事業の推進に生かします。

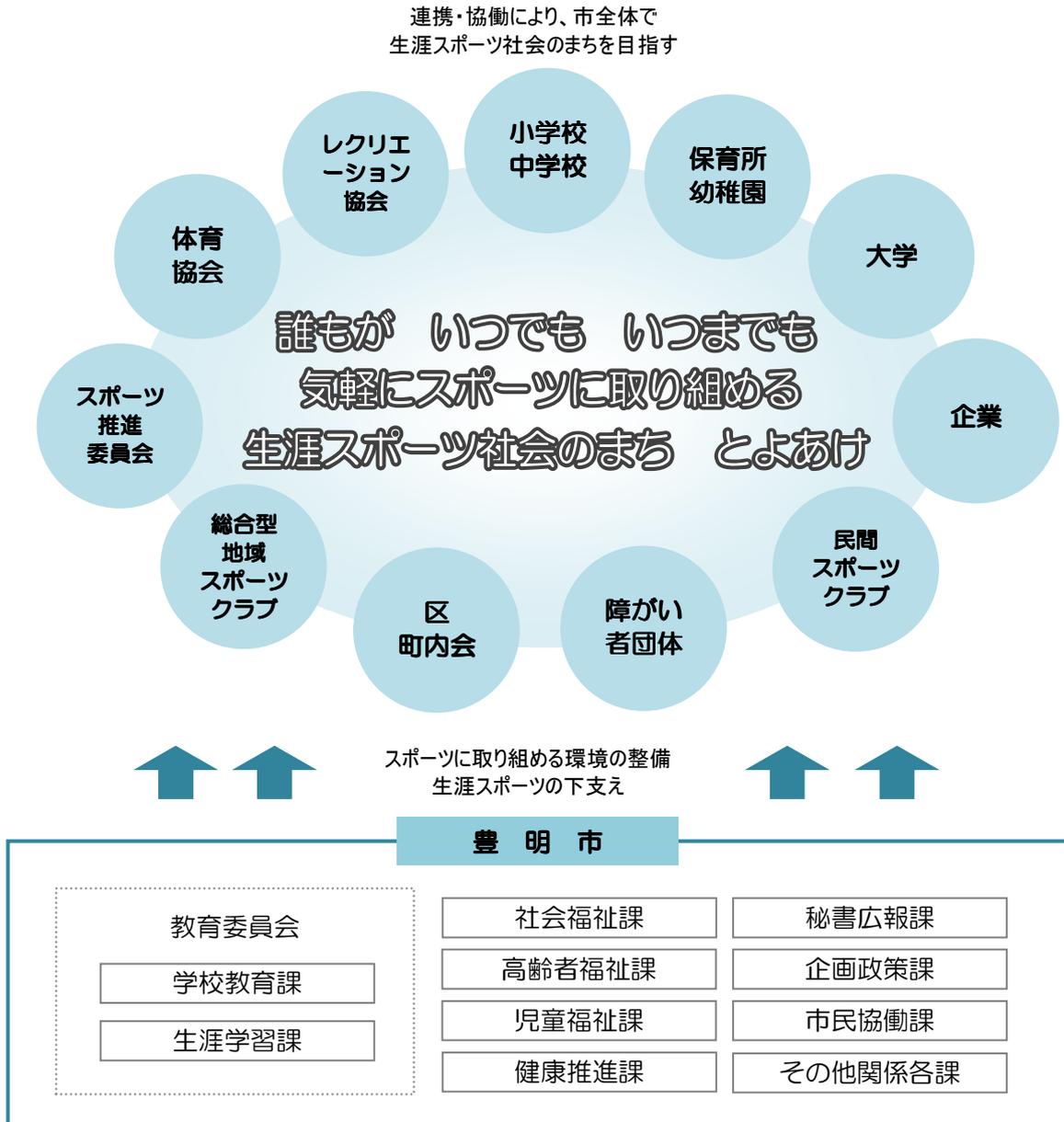


### (3) 市民、団体等との連携・協働

市民が日常的にスポーツに取り組めるよう、意識啓発活動を推進するとともに誰もが参加しやすい環境づくりを進めます。また、統計データの収集や、定期的な市民アンケートの実施などにより、市民ニーズを把握した上で計画の改善などに生かします。

また、より一層のスポーツ活動の振興を図るため、スポーツに取り組む各種団体の自主的な活動を支援するとともに、各種団体と連携・協働した取り組みを積極的に実施します。

#### ■連携イメージ



# 資料編

## 1. 豊明市スポーツ推進計画策定委員会

### (1) 豊明市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 生涯スポーツ社会の実現に向けて、スポーツに関する施策について総合的な研究協議を行い、豊明市スポーツ推進計画（以下「計画」という。）を策定するため豊明市スポーツ推進計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を検討する。

- (1) 計画を立案するための調査及び策定の助言に関すること。
- (2) 関係機関との連絡調整に関すること。
- (3) その他計画策定に必要なこと。

(組織)

第3条 委員会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 社会教育委員
- (3) 各種団体の代表者
- (4) 公募市民

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は、委員の互選により定め、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長が委員のうちから指名する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(任期)

第5条 委員の任期は、平成25年3月31日までとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第6条 委員会の会議は委員長が招集する。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員長は、必要があると認めるときは、会議の関係者の出席を求め、意見若しくは説明を聴き、又は必要な資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会教育部生涯学習課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成24年7月1日から施行する。

## (2) 豊明市スポーツ推進計画策定委員会委員名簿

役職	所属	氏名
委員長	学識経験者	寺澤 猛
副委員長	スポーツ推進委員会（委員長）	山田 勇二
委員	社会教育委員	緒方 誠子
委員	体育協会（会長）	櫻井 鍾
委員	レクリエーション協会（会長）	相羽 雅敏
委員	老人クラブ連合会	鈴木 信子
委員	豊明市子ども会連絡協議会（会長）	加藤 健一
委員	小中学校長会	早川 孝明
委員	心身障害者（児）福祉団体連合会	倉本 由美
委員	一般公募	八塚 敦子

### ■策定委員会の様子



## 2. スポーツ推進計画策定検討プロジェクトチーム

### (1) 豊明市スポーツ推進計画策定検討プロジェクトチーム委員名簿

#### 【委員】

役職	所属	氏名
委員	秘書政策課	矢野 優
委員	児童福祉課	六辻 澄男
委員	社会福祉課	高垣 茂晴
委員	高齢者福祉課	高木 安司
委員	医療健康課	矢野真由美
委員	学校教育課	中野 和博
委員	市民協働課	成戸 貴紀

#### 【事務局】

役職	所属	氏名
豊明市教育委員会	教育長	市野 光信
豊明市教育委員会	教育部長	津田 潔
豊明市教育委員会	生涯学習課長	吉川 勝美
豊明市教育委員会	生涯学習課 課長補佐 (福祉体育館館長)	加藤 金吾
豊明市教育委員会	生涯学習課 スポーツ担当係長	伊藤 孝士
豊明市教育委員会	生涯学習課 スポーツ担当主事	野村 和義

### 3. 用語解説

#### 【ア行】

新しい公共	支え合いと活気のある社会をつくるための協働の場。市民・市民団体や地域組織、企業、市等が、一定のルールとそれぞれの役割をもって当事者として参加し、協働するもの。
ICT	情報通信技術。IT (Information Technology) の「情報」に加えて「コミュニケーション」(共同)性が具体的に表現されている点に特徴がある。
インディアカ	ドイツで考案されたニュースポーツの一種。インディアカボールあるいはインディアカと呼ばれる羽根のついたシャトルコック状のボールを、ネットをはさんで相対した2チームが互いに手で打ち合う団体競技。
AED	自動体外式除細動器。心室細動の際に機器が自動的に解析を行い、必要に応じて電気的なショック(除細動)を与え、心臓の働きを戻すことを試みる医療機器。

#### 【カ行】

グラウンドゴルフ	ゴルフを基本に、日本で考案されたニュースポーツの一種。学校などのグラウンドでも気軽に行えるということをイメージして名づけられた。必要とするプレイ時間は、標準的なコースで8ホール30分程度。
コーディネーショントレーニング	身体と脳・神経系統のバランスの良い発育を促し、運動の習得効果を高めるためのトレーニング法。「運動における一連の過程」を円滑に、正確に行う能力を向上させるためのトレーニング。

#### 【サ行】

スポーツ基本法	昭和36年に制定されたスポーツ振興法(昭和36年法律第141号)を50年ぶりに改正し、スポーツに関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務並びにスポーツ団体の努力等を明らかにするとともに、スポーツに関する施策の基本となる事項を定めるもの。
スポーツ基本計画	スポーツ基本法の理念を具体化し、今後の我が国のスポーツ施策の具体的な方向性を示すものとして、国、地方公共団体及びスポーツ団体等の関係者が一体となって施策を推進していくための重要な指針として位置づけられるもの。
スポーツ振興法	1961年6月に制定された、日本におけるスポーツ振興の基本法。内容は総則、スポーツ振興のための措置、スポーツ振興審議会及び体育指導委員、国の補助の4章からなり、特にスポーツ振興に関する国及び地方公共団体の施策の基本と任務を明示するとともに、スポーツは国民に強制することなく、常に国民の自主性を尊重し、それぞれの適性と健康状態に応じて実践するものであることを強調している。
ソーシャルメディア	TwitterやFacebook、LINEなど、インターネット上で展開される情報メディアのあり方で、個人による情報発信や個人間のコミュニケーション、人の結びつきを利用した情報流通などといった社会的な要素を含んだメディアのこと。
スポーツ推進委員	スポーツ基本法第32条に基づき、市町村教育委員会が委嘱する委員。任期2年の非常勤公務員。
ショートテニス	スウェーデンで考案されたニュースポーツの一種。テニスボールよりもやや大きなスポンジボールと軽いラケットを使い、通常のテニスコートよりも小さな、バドミントンコートを利用して行う。
総合型地域スポーツクラブ	人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブ。「多世代」「多種目」「多志向」という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営される。
指定管理者制度	公の施設について、民間事業者等が有するノウハウを活用することにより、住民サービスの質の向上を図っていくことで、施設の設置の目的を効果的に達成するために設けられた制度。

【タ行】

ターゲット・バード ゴルフ	ゴルフを基本に、日本で考案されたニュースポーツの一種。ゴルフボールにバドミントンの羽をつけたボールをゴルフクラブで打ち、打数の少なさを競う。
第4次豊明市 総合計画	長期的なまちづくりの方針を定めた今後の地域運営の基本となる計画。行政と市民が一体となった協働のまちづくりを推進し、効率的で質の高い行政サービス、魅力と愛着を感じるまちを実現するために策定されたもの。
豊明市第2次 情報化推進計画	社会環境の変化に適切に対応しながら、市民サービスの向上のため、行政及び地域の情報化を総合的かつ計画的に推進するため策定するもの。

【ナ行】

ニュースポーツ	20世紀後半以降に新しく考案・紹介されたスポーツ群。一般に、勝敗にこだわらずレクリエーションの一環として気軽に楽しむことを主眼とした身体運動を指す。
ノルディック ウォーキング	2本のポール（ストック）を使って歩行運動を補助し、運動効果をより増強するフィットネスエクササイズの種類。

【ハ行】

PDCAサイクル	管理業務を円滑に進める手法の一つ。Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Action（改善）の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善するもの。
バリアフリー	障がい者や高齢者が社会生活をする上で、障壁（バリア）となるものを除去するという意味。
フィットネス ウォーキング	健康の維持、疾患の予防などの目的で行われる歩行運動。通常のウォーキングより歩幅を広くし、少し速めに歩く。

---

豊明市スポーツ推進計画

発行：豊明市  
編集：豊明市教育委員会 生涯学習課

住所：〒470-1123  
愛知県豊明市西川町笹原 26 番地 1  
豊明市福祉体育館

TEL：0562-93-5001

発行年月：平成 25 年 3 月

---